

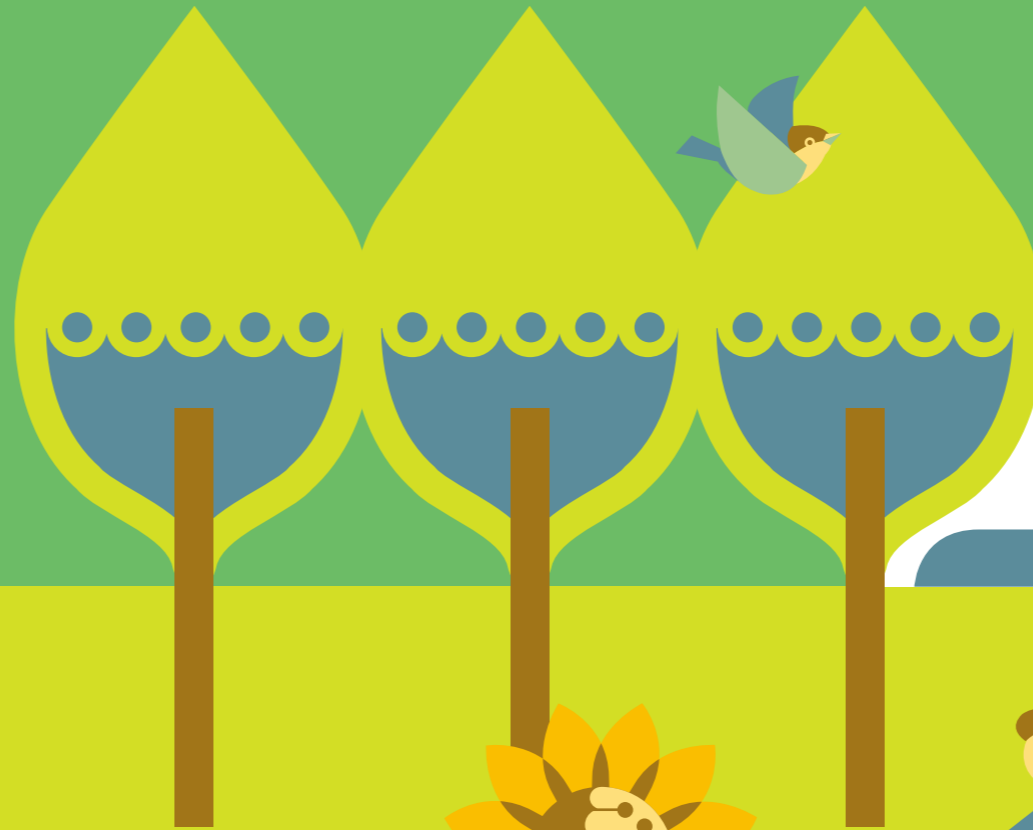


社会福祉法人 函館厚生院

CSR REPORT

Corporate Social Responsibility

函館厚生院グループ CSRレポート | 2026



保健・医療・福祉の融合

社会福祉法人 函館厚生院

Social welfare service corporation Hakodate Koseiin

<https://www.koseiin.or.jp>





CSR REPORT

みんなの笑顔のために

ALL厚生院で地域住民の暮らしを見守る。

CSR 理念の共有



函館厚生院／CSRの取組

CSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)経営とは、企業は利益を追求するだけでなく、環境問題や人権問題への対応をはじめ、さまざまな社会的な責任を果たすべきとする考え方やその取り組みを経営に取り入れることを指します。函館厚生院グループは、職員だけでなく、患者さんや利用者さん、地域住民など、世の中のさまざまな人々と深く関わり合いながら活動しています。こうしたステークホルダー(利害関係者)と函館厚生院グループとの信頼関係を築き、社会の一員として社会貢献活動や環境問題に取り組むなど、長期的な視野に立った経営を行っています。この冊子は2025年度の各事業におけるCSR活動の内容を報告書としてまとめたものです。



INDEX

函館厚生院 CSRレポート | 2026 <目次>

巻頭

- 理念・沿革/理事長メッセージ 3
- 運営施設と事業・マップ 5
- 特集:フードドライブ 7

CSRレポート

- 人 権
 - ・等しく生きる権利のために 11
 - ・多文化共生社会の人財を育む 13
 - ・外国人労働力を育て活かす 15
 - ・慈しみのこころを育てる 17
- 労働慣行
 - ・感染対策の多施設連携 KMAT活動 19
 - ・働き手の育成 21
 - ・未来の担い手確保のために 23
 - ・地域の若い力へ呼びかける 25
 - ・ALL厚生院で若い力を育てる 27
 - ・医療サービス向上のため 29
 - ・進化する医療テクノロジー 31
 - ・総合病院としての取組 33
 - ・組織体制の拡充 35
- 環 境
 - ・世代を超えた環境づくり 37
- 公正な事業慣行
 - ・災害に備えて 39
- 消費者課題
 - ・在宅介護の充実 41
 - ・地域での医療活動 43
- コミュニティ参画
 - ・企業とのコラボ企画 45
 - ・関連施設とのコラボ 47
 - ・次世代との交流をとおして 49
 - ・祭りだワッショイ 51
 - ・地域社会での共生 53
 - ・高齢者の健康促進のため 55
 - ・子育て支援と健康促進 57
- 「育英基金」について 59

資料編

- ・函館厚生院グループ法人データ 61
- ・各病院・施設のデータ 63
- ・ISO26000対照表 64
- ・問い合わせ先 65

函館厚生院グループの運営施設と事業

■病院



函館中央病院
(435床※)
※令和8年6月1日より



函館五稜郭病院
(480床)



ななえ新病院
(199床)

■本部



本部事務局

■介護老人保健施設(介護・リハビリ)



ケンゆのかわ
(定員150名)



もも太郎
(定員100名)

■介護老人福祉施設(介護・生活支援)



百楽園
(定員129名)



ももハウス
(定員60名)

■養護老人ホーム



永楽荘
(定員150名)

■軽費老人ホーム(ケアハウス)



ケアハウス豊寿
(定員50名)



ベシアニエス
(定員50名)

■救護施設



高丘寮
(定員120名)

■介護予防・在宅支援・自立支援相談機関



函館市地域包括支援センター
たかおか



函館市地域包括支援センター
ゆのかわ

■看護学校



函館厚生院看護専門学校
(定員120名)

■児童福祉



くるみ学園
(定員40名)



Kōseiin Group

保健・医療・福祉の融合を目指し
「いつでも安らぎを」をモットーに
新たな時代に向けて歩みを進めます。

函館厚生院シンボルマークについて

飛躍感のある二つのフォルムは、「心」と「体」の健康を表し、それが重なり合ってハートを形成しており、函館厚生院が目指す「心身ともに健康であることこそ本当の健康である」ことを表現しています。函館厚生院創立100周年を記念し、平成12年1月13日に制定されました。





中央病院



五稜郭病院



ななえ新病院



ケンゆのかわ



もも太郎



百楽園



ももハウス



“慈しみのこころ”を未来へつなぐ
Hakodate
Kōseiin
We Are
Food Drive
厚生院
イラスト：鈴木康章（五稜郭病院）



永楽荘



ケアハウス豊寿



ベイアニエス



高丘寮



包括たかおか



包括ゆのかわ



看護専門学校



くるみ学園



厚生院本部

法人の基本理念に基づいてALL厚生院で取り組む活動です

原点にある「慈しみのこころ」

私たちの歩みは、明治33年(1900年)に創設された「函館慈恵院」から始まりました。度重なる大火や貧困に苦しむ地域の人々を救うため、仲山與七、上田大法、寺井四郎兵衛の3名が私財を投じて立ち上げたのが原点です。この「慈しみのこころ」は、125年の歳月を経た現在も、私たちの根幹に深く息づいています。時代や環境が変わっても、地域の皆様に寄り添い、健やかな暮らしを支え続けるという創設者たちの強い想いは、今も変わらずここにありま

現代の函館が直面する「食の危機」

生活困窮者の増加に伴い、フードバンク道南協議会では今、深刻な食料不足に直面しています。函館市は全国平均と比べて生活保護率が高く、食費を削らざるを得ない世帯や単身高齢者が増え続けているのが現状です。令和7年度も多く寄付をいただいておりますが、必要とされる方々の数に対して、支援物資の供給が追いついていません。特に子どもたちのいる家庭へ届けるお米は、慢性的に不足しています。

“現代の慈しみ”としての函館厚生院フードドライブ

こうした地域の課題に対し、函館厚生院では基本理念に基づき「函館厚生院フードドライブ」を展開しています。この活動は、職員が家庭で余っている食品を職場に持ち寄り、地域の福祉団体へ寄付する取り組みです。五稜郭病院や中央病院をはじめ、運営する3病院・13施設の休憩室などにボックスを設置し、ALL厚生院のネットワークを活かして年間を通じ実施しています。職員一人ひとりの協力により、令和7年度は1245品目、300kgもの温かい支援が集まりました。

寄付できる食品のルール

安全に届けるため、以下の基準が設けられています。

寄付できるもの

- 賞味期限1ヶ月以上・常温保存可能・未開封
- お米、乾麺、缶詰、レトルト、調味料、お菓子
- 粉ミルク、離乳食など

寄付できないもの

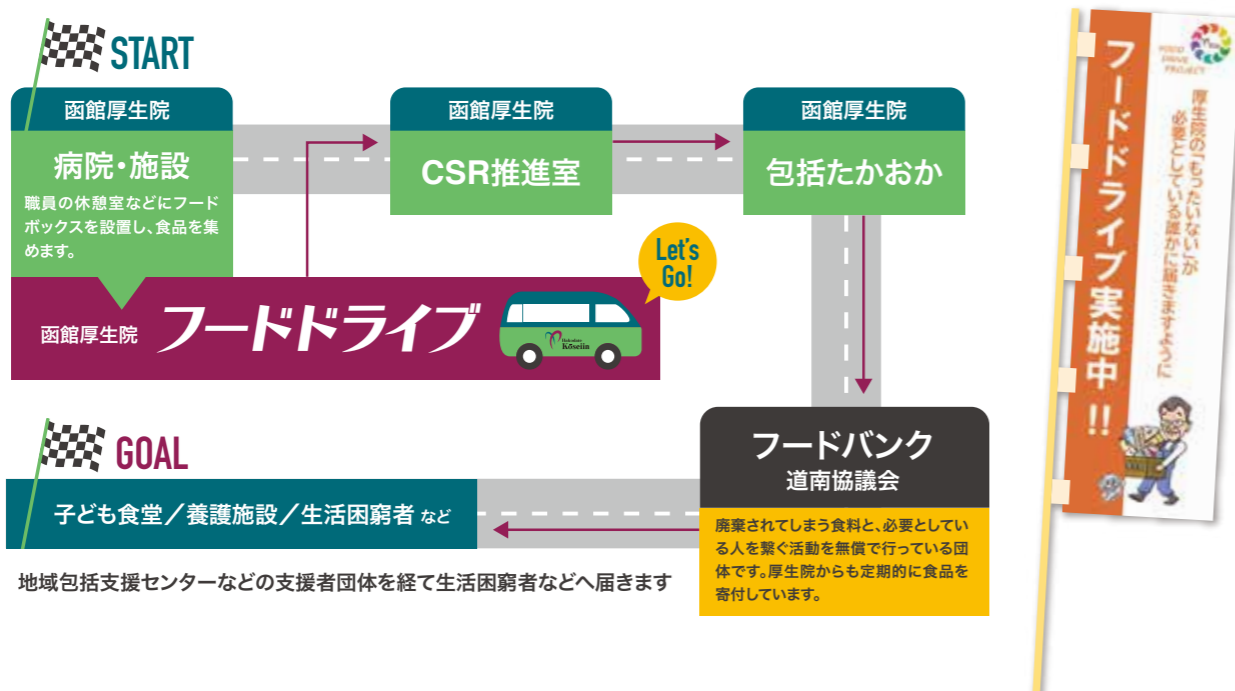
- 賞味期限切れ・生鮮食品・冷蔵・冷凍品
- アルコール類



食品はどこへ届くのか

職員から寄せられた大切な食品は、「フードバンク道南協議会」を通じて地域の必要な場所へと速やかに届けられます。寄付先は、函館市内の地域食堂や子ども食堂、児童養護施設など多岐にわたります。さらに、食の課題を抱える生活困窮世帯へ直接支援を行うため、市内10カ所の地域包括支援センターや福祉事務所、ひとり親家庭のサポート機関などとも緊密に連携しています。これからも、この透明性のあるネットワークを活かし、職員の温かい想いを地域の食卓へと還元してまいります。

集められた食品が届くまでの流れ



“もったいない”を“誰かの助け”へ

125年前、私たちの先人たちは、目の前にいる支援が必要な方々のために立ち上がりました。「函館厚生院フードドライブ」は、その気高い精神を現代へと引き継ぐ大切な取り組みです。家庭で余ってしまった食品を持ち寄るという職員一人ひとりの小さな一歩が、125年経った今、誰かの明日の安心へと繋がり、地域の未来を支える大きな力になっています。私たちはこれからも、この「慈しみのこころ」を絶やすことなく、地域の皆様が安心して暮らせる街づくりに向けて、手を取り合いながら歩みを進めてまいります。



フードドライブのためのポスター



HEART to HEART

中央病院
五稜郭病院
ななえ新病院
ケンゆのかわ
もも太郎
百楽園
ももハウス
永楽荘
ケアハウス豊寿
ペイアニエス
高丘寮
包括たかおか
包括ゆのかわ
函館厚生院看護専門学校
くるみ学園

KoseiinGroup



REPORT
Corporate Social Responsibility

厚生院グループからのCSR報告書



等しく生きる権利のために

- 永楽荘
- 百楽園
- 高丘寮
- ベアニエス
- ケンゆのかわ
- ももハウス
- くるみ学園
- もも太郎

安心サポート事業 | 生活困窮者に対する地域貢献活動

函館市は全国・全道と比較しても生活保護受給者や生活困窮者の割合が高い水準となっています。当法人では地域貢献活動である「安心サポート事業」に取り組む必要性を認識し、令和3年8月から事業に参画しています。本事業を展開する上で法人全体での事業への共通理解と取り扱いがスムーズに行えるよう、法人内8施設が輪番制で援助活動を行う体制を執り、担当者が標準的に支援できるよう手順書を作成し運用しています。令和7年度は経済的支援事業6件の他に就労体験応援事業が2件あり、企業への就職に結びついたケースもあります。また、平成30年1月より永楽荘では経済的または環境上の理由から食料確保が困難な方を対象に確かな食料提供を行う法人独自の支援事業を実施しています。

法人内独自事業概要

食料緊急支援サービス事業

- 受付窓口** 包括たかおか・包括ゆのかわ
- 対象者** 上記、包括支援センター担当圏域にお住まいの65歳以上の方※
- 援助方法** 原則、3日間 計9食分の食料提供(3食/1日)

※お問い合わせの内容に合わせて、柔軟に対応します

【対象外】①緊急性がないと判断される場合 ②対象者が自立に向けた支援を受けずに経済的援助のみを希望する場合 ③その他、本事業による支援が妥当でないと判断した場合(例)暴力的言動、著しい非協力的態度 等



食料緊急支援サービス事業 支給例

年度別 食料緊急支援サービス実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
件数	7件	23件	21件	25件	27件
食数	22食	188食	176食	229食	360食

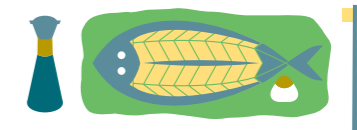
●担当者からの声

本事業を開始し8年目を迎えました。事業内容の周知が進み利用件数も年々増加傾向にあります。地域のセーフティーネットとして常に緊急対応ができる体制を構築し、状況が切迫しているケースにも対応しています。援助内容は対象者の状況やケースに応じ柔軟に対応しており、今後も継続していきます。この事業を必要とする方々へ情報が届き、今後の生活を整える資源の一部となれば幸いです。

安心サポート事業概要

経済的支援事業

- 受付窓口** 市内包括支援センター、自立相談支援機関、居宅介護支援事業所 等
- 対象者** 既存の制度適用をしても尚、生活困窮し生命に関わる緊急性を要する方
- 援助方法** 食糧費や光熱水費・日用品・必要な医療費等を上限3万円として現物支給



【対象外】①生活保護を受給している、若しくは施設入居している場合 ②緊急性のない滞納金や日常生活に充てようとする場合 ③借入金に充てたり、単に現金を求めたりする場合 ④原則として既に同一市町村内の参加法人で本事業の支援を受けている場合 ⑤対象者が自立に向けた支援を受けずに経済的援助のみを希望する場合 ⑥その他、参加法人が本事業による支援が妥当でないと判断した場合(例)暴力的言動、著しい非協力的態度 等

●担当者からの声

令和7年度は法人全体で6件の経済的支援を実施しました。本事業を利用された方は経済的にも精神的にも余裕ができ、生活環境が好転する“きっかけ”になっていると実感しました。光熱費等の支援から始まり、食料や生活物品の購入サポートまで行う事で生活基盤が固まり、自立に向け歩みだすことができると考えています。本事業を利用された方からは「緊急時に経済的支援を受けることができ、非常に感謝している」など声を聞くことができ、この事業を活用されることで困窮要因が解消され、少しでも安心した生活が送られる方が増えることを願い、事業を継続していきます。



経済的援助事業 支給例

安心サポート事業概要

就労体験応援事業

- 受付窓口** 市内包括支援センター、自立相談支援機関
- 対象者** 就職を希望し、現に生活困窮しており、かつ自立相談支援機関の自立支援プランにおいて本事業の利用が予定されている方
- 援助方法** 各施設にて就労体験機会を提供し、経済的支援(応援金)及び就労意欲喚起を行う 応援金～時給800円(対象者1名あたり上限:20,000円)

【対象外】①対象者が既に施設入居している場合 ②対象者が生活保護受給している場合 ③対象者が自立に向けた相談支援を受けない場合 ④単に現金を求める場合 ⑤その他、参加法人が本事業による支援が妥当でないと判断した場合(例)暴力的言動、著しい非協力的態度 等

●担当者からの声

令和7年度は法人全体で2件の就労体験支援を実施しました。支援を受けた方は社会に自主的に出ることによる不安を感じ、就労へも踏み出すことができず、困窮している状況にありました。対象者の状況に応じプログラムを組み、就労体験を重ねながら自信を高め、達成感を得ることで就労意欲を高められるよう支援しています。就労体験支援を受け、企業への就労に結び付いた方もおり、本事業の意義を感じています。



就労体験応援事業 洗濯物たため

就労体験応援事業 環境整備

無料低額診療・利用事業 | 生活困窮者の自己負担減免(無料)

無料低額診療事業とは社会福祉法第2条第3項に基づいて、生計困難な方が経済的な理由により必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料または低額な料金で診療する制度です。このほか当法人では経済的理由による生活困窮者の医療費等の自己負担額減免を行っています。

利用者負担軽減額	令和6年度	令和7年度
無料低額診療・利用事業	7,856,633円	5,360,050円
その他の減免	4,873,029円	13,185,214円
合計	12,729,662円	18,545,264円

利用者負担を軽減した場合の利用者負担軽減額(無料又は低額診療の割引額含む)

対象となる方

- ・低所得者、または低所得世帯で、医療費の支払いに困っている方
- ・病気や障害などで収入がなくなり困っている方
- ・リストラや失業のため一時的に収入がなくなり困っている方
- ・医療費の支払いをすると生活が困難になる方
- ・その他(住所不定の方、破産をされた方、外国人の方、DV被害者など)

多文化共生社会の人財を育む

永楽荘

百楽園

ケンゆのかわ

ももハウス

ななえ新病院

厚生院本部

北海道の冬を満喫

初めてのスキーに大興奮! 第4・5期実習生がグリーンピア大沼へ

令和8年1月22日、技能実習生第4・5期生の19名がグリーンピア大沼を訪れ、スキーとスノーボードに挑戦しました。当日は朝から天候に恵まれ、ゲレンデには柔らかな新雪が広がる絶好のコンディションとなりました。5期生にとっては、今回が初めてのウィンタースポーツ体験です。インストラクターの丁寧な指導のもと、滑り方の基本を一つひとつ教わりました。最初は慣れない雪山での動きに苦戦し、転倒を繰り返す場面もありましたが、まさに一歩ずつ、着実にコツを掴んでいく実習生たち。次第にスムーズに滑れるようになっていく姿がとても印象的でした。参加者からは「最初は難しかったけれど、だんだん滑れるようになって楽しかった!」と、充実した笑顔がこぼれました。白銀のゲレンデを舞台に、終始笑顔があふれる、思い出深い冬の日となりました。



より高い日本語レベルを習得

GoogleClassroomで効率アップ! 1年目実習生の日本語講習

毎月2回、入国1年目の技能実習生を対象とした日本語講習を会議室で実施しています。今年度からは、各実習生へタブレット端末を貸し出し、「Google Classroom」を活用した課題提出や添削指導を導入しました。従来の紙プリントからWeb上で共有に移行したことで、テンプレートの共有や提出状況の管理がスムーズになりました。現在、実習生たちは日本語能力試験(JLPT)の「N3」合格を目指し、デジタルツールも活用しながら日々猛勉強に励んでいます。

Google Classroom(グーグルクラスルーム)
Googleが学校向けに開発した無料のWebサービスで、課題の作成、配布、採点をペーパーレス化、簡素化することを目的としています。



新たな外国籍人材の獲得

未来の仲間を現地で選考! インドネシアで第6期技能実習生の採用面接

新たな人材を獲得すべく、7月7日から11日の日程でインドネシアへ赴き、第6期技能実習生の採用面接を行いました。監理団体「福」の馬場理事の引率のもと、7月8日にジャカルタの「OSセルナジャヤ本社」にて現地面接を実施。厳正な審査の結果、各施設2名ずつ、合計8名の採用が決定いたしました。未来の仲間となる優秀な人材を迎える準備を、今後もALL厚生院で進めてまいります。



百楽園
ヌルさんとスマジくん
ケンゆのかわ
シャフィラさんとファティンさん
ももハウス
アナさんとアイシャさん
ななえ新病院
ウィルザさんとフェブリさん
馬場理事とともに
OSセルナジャヤ本社にて

高い日本語レベルを獲得

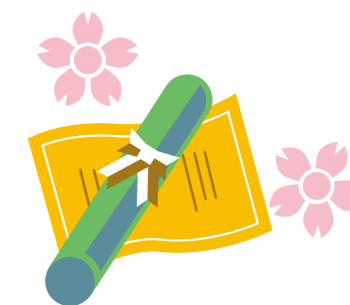
さらなるレベルアップへ! 努力が実った外国籍職員の笑顔はじける

函館厚生院で働く外国籍職員4名が、昨年12月に札幌市で行われた日本語能力試験(JLPT)に挑戦し、見事合格を果たしました。同試験は日本語能力を測定するもので、最も難しい「N1」から「N5」までの5段階に分かれています。今回、新聞などを理解できる「N2」や、言い換え表現で要点を理解できる「N3」という高難度レベルに合格。常にレベルアップを目指す4名は、日々の業務の傍ら猛勉強に励んできました。合格通知が届いた瞬間には、努力が実を結び、全員に最高のはじける笑顔が溢れていました。

JLPT: Japanese-Language Proficiency Test



(左から)メリンダさん、ジェニファーさん、ディナさん
アノカさん



■N2合格

ジェニファーさん
[ケンゆのかわ 技能実習生]
メリンダさん
[百楽園 技能実習生]
アノカさん
[百楽園 特定技能]

■N3合格

ディナさん
[百楽園 技能実習生]

外国人労働力を育て 活かす

永楽荘

百楽園

ケンゆのかわ

五稜郭病院

ももハウス

ななえ新病院

厚生院本部

新しい人材が函館厚生院へ

ようこそ函館へ! 第6期技能実習生が元気に仲間入り

第6期技能実習生が3月11日に函館に到着しました。新函館北斗駅では配属先の病院・施設職員が出迎え、記念撮影を行いました。来函後、まずは本部にて、理事長より辞令をわたして頂き、翌日以降は事務手続き等を行いました。現在は各施設にて技能実習をスタートさせています。



辞令をいただきました



中田理事長からのお話



新函館北斗駅にて

外国人人材との継続的交流

外国人奨学生の インターンシップを今年度も実施

ネパールやミャンマーからの外国人奨学生は、函館の語学学校を卒業後、介護福祉士の資格取得を目指して札幌の専門学校に進学します。しかし、遠方ゆえのコミュニケーションの難しさや経済的理由から帰国が難しく、在学中に法人内施設の雰囲気や仕事内容を知る機会がないことが懸念されていました。そこで、奨学生の不安を解消し、士気向上を後押しすることを目的に、今年度もインターンシップを実施しました。今後も、未来の介護現場を担う奨学生を全力でサポートしてまいります。



ネパール・ミャンマー奨学生

外国人奨学生が4名に! 今春には第一期生が厚生院へ

令和5年度末に日本国際語学アカデミーを卒業した第一期生のレカさん、チャンドラマさん、スミトラさんは、「札幌医学技術福祉歯科専門学校」に進学し、介護福祉士資格の取得を目指しました。ネパール出身の3名は日本語も上達し、介護技術も熱心に学びました。また、ミャンマー出身で第2期生のイケー（イケーピョー）さんは同アカデミーを順調に卒業し、4月8日に「せいとく介護こども福祉専門学校」の入学式を迎えました。4名はインターンシップにも参加し、法人施設で実務を体験。これで外国人奨学生は4名となり、第1期生の3名は令和8年4月から法人の各施設に配属となります。



インドネシア人の採用

院内に礼拝室も設置! 特定技能職員15名が五稜郭病院で勤務スタート

五稜郭病院では人材不足への対応策として、在留資格「特定技能」に基づき、令和8年2月1日付でインドネシア出身の15名を看護アシスタントとして採用しました。各病棟や集中治療センターに配属され、入浴や食事の介助など身体介護を担っています。生活面では派遣会社の支援のもと環境を整備したほか、イスラム教徒である職員のために、院内に礼拝室や専用更衣室を新たに設置しました。入職時点で基本的な日本語(N4レベル)を習得していますが、現在はさらなるレベル向上を目指しています。今後も相互理解を進め、円滑な受け入れと定着を図ってまいります。



慈しみのこころを育てる

先人の思いを後世に伝えていきます

くるみ学園

高丘寮

くるみ学園の入所児・職員らが「育児の墓」などに参列供養

令和7年8月7日、くるみ学園の職員と入所児、および本部職員が参列し、函館市宮住吉町共同墓地内の「育児の墓」と船見町墓地内の「函館厚生院の墓」への墓参りを執り行いました。当日はあいにくの雨模様となったため、東海山地蔵堂内にて厳かに供養を執り行いました。その後、時折のぞく晴れ間に合わせて「函館厚生院の墓」へ移動し、墓前にお供えをして静かに手を合わせることができました。悪天候の中ではありましたが、参列者全員で心を込めて先人の冥福を祈り、例年通りの大切な行事を無事に終えました。



地藏堂内



函館厚生院の墓

当院のYoutube「函館厚生院はじまり物語」で育児の墓、厚生院の墓についての説明を行っております。またくるみ学園のホームページ内でも育児の墓についての歴史を説明しておりますのでご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=E5JO6dUbxu0>



YouTube



くるみ学園HP

障がい者さんたちの働く場所を創設

ベИАニエス

包括たかおか

百楽園

永楽荘

高丘寮

もも太郎

サステナ推進室が活動開始 介護間接業務の貴重な戦力に

令和7年11月4日より「サステナ推進室」が新たな活動を開始しました。ベИАニエスの能代介護福祉士をジョブコーチ、包括たかおかの熊谷支援相談員をオブザーバーに迎え、第1ステップとして百楽園のベッドシーツ交換業務に着手しました。現在は、永楽荘、高丘寮、もも太郎へと活動範囲を順調に広げています。同推進室は、法人の介護間接業務を陰から支える貴重な戦力として日々大きな一翼を担っており、今後はさらなる業務内容の充実に向け、職員一丸となって体制強化と業務の拡大を目指していきます。

※サステナ(サステナビリティ)とは、環境、社会、経済のバランスを保ちながら、将来の世代のニーズを損なうことなく、現在のニーズを満たすことを目指す考え方のことです。



専用カートを準備



備品も自ら組み立てます

子どもたちが自宅以外に“かえる”場所

包括ゆのかわ

笑顔が集まる居場所 毎月1回「ハホニコキッチン」を開催

日吉南団地自治会館を活用し、毎月1回、子どもや地域の高齢者が気軽に集える地域食堂「ハホニコキッチン」を開催しています。当日は地域住民をはじめ、日吉ヶ丘小学校の児童や湯川中学校の生徒、保護者らが多数参加。夕方には「ただいま」と元気な声を上げながら子どもたちが集まり、宿題に取り組んだり将棋やモノづくりを楽しんだりして過ごしています。さらに七夕や夏まつり、ハロウィンといった季節にちなんだイベントも企画されており、食事を通じた世代間交流と笑顔があふれる大切な地域の居場所となっています。



多世代の交流の場になっています



中高生もお手伝い



しおり作り



素敵な作品が完成

ハホニコキッチンとは

ハッと気付くことがあって

(様々な方との交流からたくさんの発見がある)

ホッとできて ニッコッと笑顔になる 場所

感染対策の多施設連携 KMAT活動



ALL厚生院で感染症予防対策

KMAT [Koseiin Medical Assistance Team]

法人一丸となって(ALL厚生院として)感染症等への対策を講じていくため、各病院、各施設からメンバーを編成し、組織横断的に活動する「感染対策チーム KMAT」。感染対策の標準化を図るため、各施設ラウンドを行い、感染予防対策レベルの向上・意識統一を図るほか、理事長以下、KMATメンバーが定期的に集まり、感染対策に関する諸問題について、様々な視点から議論を行っています。また、新型コロナウイルス等罹患者が発生した場合は速やかに施設~KMAT間で連携をとり、状況を共有しつつ、施設介入し、拡大防止策を行っています。

【KMATの主な活動内容】

- ・法人内の感染対策の標準化(感染BCP策定、訓練実施、カンファレンスの開催)
- ・各施設の特徴を踏まえた感染対策の個別化
- ・各施設への定期ラウンドによる感染対策の指導教育
- ・感染アウトブレイク、クラスター発生時等の現場指揮及び指導
- ・各施設からの感染相談の窓口
- ・その他、法人本部への提言など

【KMAT主要メンバー】

- 五稜郭病院 / 加地臨床顧問(医師)、山根感染情報管理室副室長(看護師)
- 中央病院 / 加藤感染管理室主任(看護師)、野澤検査科主任(臨床検査技師)
- ななえ新病院 / 目黒副院長(医師)、菅井薬剤科係長(薬剤師)
- もも太郎 / 金崎副施設長(看護師)
- 百楽園 / 水沢施設長
- 本部事務局 / 坂野常務理事、金子総務係長
- オブザーバー / 田中事務部長(ななえ新病院事務部長)



各施設の感染予防対策の標準化を目指して

KMATが施設ラウンド結果を報告 法人全体で情報を共有

施設ラウンド

施設の感染対策状況等を現地で確認し、適宜、指導を行いつつ、レポートを作成し、状況を共有、更なる改善に繋げています。

今年度の方針として、KMATによる施設ラウンド結果のフィードバック方法を刷新しました。従来は実施施設のみへの共有でしたが、今年度からは施設長会議※の場を活用し、法人全体での情報共有を徹底しています。会議では昨年の指摘内容がどう変わったか、改善点や優良事例をレポートで報告。特に改善前後の様子を比較した「Before・After」の形式による解説は、参加メンバーに強烈なインパクトを与えています。各施設長らが要改善点を持ち帰ることで、法人全体の感染予防対策のさらなる向上に活用されています。

※施設長会議:理事長・常務理事以下、各施設長が参集し法人全体について検討する会議のことです。

各施設のレポートが集まりました



KMATレポート抜粋

実技重視の4テーマを展開 KMATの施設巡回研修で法人全体の技術向上

令和7年度の活動として、KMATは施設訪問時の通常チェックに加え、要望の多かった4項目についての研修会を新たに実施しました。自由参加形式としたことで、近隣施設からも多数の職員が集まりました。防護具(PPE)の着脱研修では着脱基本から学ぶことができる内容とし、手指・環境消毒研修では専用機器を用いて汚れ度を可視化。参加者は意外な場所の汚れに驚きながら、熱心に練習へ励んでいました。これら実技を交えた体験型の研修内容は、職員の確実なスキル向上に繋がっており、結果はレポート化して施設長会議で随時共有しています。

研修会テーマ	実施会場
疥癬について	ももハウス、永楽荘、豊寿
手指消毒、環境消毒のタイミングについて	高丘寮、くるみ、2包括
KMATが示すガウンテクニックについて	ケンゆのかわ、もも太郎
食中毒予防について	百楽園、ベイアニエス



もも太郎・くるみ学園での研修の様子

働き手の育成

キャリアラダー制度 進行しています

厚生院本部

介護キャリアラダー制度スタート!

■アセッサー会議

令和7年度より新人5人を対象にキャリアラダー制度が始動。初のサーベイ実施に向け、評価基準の平準化を図るため令和7年9月10日にアセッサー会議を開催し、指導者間で評価ポイントを確認・共有しました。



■サーベイ実施

ラダーシートに基づく日程調整を経て、令和7年10月にキャリアラダー制度のサーベイを実施しました。対象の新人職員たちは緊張しながらも、日頃の成果を発揮すべく基本に忠実に業務を行い、審査員の評価を受けました。



■評価会議

各施設でのサーベイの振り返りと指導ポイント共有のため、令和7年11月に評価会議を行いました。対象者の評価をすり合わせたほか、サーベイヤー自身からも「大変勉強になった」との声が上がり、有意義な共有の場となりました。



サーベイとは

サーベイとは、物事の全体像や現状を把握するために広範囲で行われる調査を指します。法人では、職員の満足度やエンゲージメントを把握し、組織課題の解決や改善策の実行に活用されます。

サーベイの目的

サーベイの主な目的は、データ収集だけでなく、その結果を基に具体的な改善策を立案し実行することです。これにより、職員満足度やエンゲージメントの向上、生産性の向上、離職率の低減などを目指します。

エンゲージメントとは

「結びつき」や「関係性」を意味する言葉で、法人と職員、または法人と利用者との間の深いつながりを指します。特に人事領域では、職員の法人に対する愛着心や貢献意欲を指すことが多いです。

栗山町 × 北海道介護福祉学校 × 函館厚生院

厚生院本部

栗山町・北海道介護福祉学校と包括連携協定を締結!



令和7年8月25日、栗山町・北海道介護福祉学校と当法人の間で「介護人材の確保に関する包括連携協定」の調印式を行いました。同校による自治体以外との協定締結は、今回が初めての取り組みとなります。本協定の締結を機に、法人は介護人材の育成と、将来を担う優秀な専門人材の確保へ向けて本格的な一歩を踏み出しました。注目度の高いイベントとして、当日は北海道新聞や函館新聞、メディカル函館、NHKによる現地取材が行われ、各メディアの紙面やニュースでも広く紹介されました。



本間局長からの当院の説明

古田事務局長からの学校の説明

調印の様子



高田理事長からの挨拶

佐々木町長からのご挨拶

テレビの取材も入りました



函館厚生院



栗山町



未来の担い手確保のために

「函館厚生院 介護人材確保・定着実行プラン」

看護師育成のための体験会

看護専門学校

看護の未来を拓く! 地元の高校生が看護学校の授業を体験

看護専門学校では令和7年10月1日に、函館西高校の2年生20名を対象に「看護学校授業体験会」を開催しました。高校生のキャリア支援と進学後のミスマッチ防止を目的に、実際の看護学校での1コマ90分授業を実施。「基礎看護学」の講義に加え、湯たんぼや水枕の作り方を学ぶ「電法(あんぼう)」の演習に挑戦してもらいました。参加した生徒からは「ぜひまた参加したい」と大好評で、未来の看護師たちの夢を応援する、有意義な地域貢献の機会となりました。



高校生を対象とした体験型イベント

厚生院本部

函館アリーナが大賑わい! 「仕事フェスタ」でノーリフティングケアを体験

令和7年9月17日、函館アリーナで高校1・2年生向けの進路イベント「仕事フェスタ」が開催され、当院もブースを出展しました。全体で851名の生徒が訪れた会場には、62の学校と22の企業ブースが参加。当院は「ノーリフティングケア」の体験コーナーを設けたほか、求人情報、包括連携協定、奨学金制度などを詳しく紹介しました。当院ブースには100名以上の生徒が来場して大盛況となり、将来の進路や仕事について直接伝える大変貴重な機会となりました。



福祉・介護の世界を発信

厚生院本部

若い世代に福祉の魅力を届ける! 白百合高校でフクシ講座を開催



若い世代へ福祉・介護の魅力を伝え、将来的な担い手不足の解消を目指す取り組みが「厚生院フクシ未来講座」です。市や学校からの要請に基づき、道南の中小高校などを訪問して授業を行うほか、地域住民向けの講座も同タイトルで開催しています。令和7年度も函館市からの依頼を受け、令和7年8月30日に白百合高校の1・2年生を対象とした講座を開講しました。受講した生徒たちへ介護のやりがいや仕事の魅力を直接伝えることで、福祉の世界を身近に感じてもらう大変貴重な機会となりました。今後も地域と連携し、未来の財産となる人財育成を継続します。

白百合の生徒に当院を紹介してもらいました

厚生院本部

白百合高校の企業探究発表に参加 当院の魅力を学生が紹介

令和7年11月1日、白百合高校の総合進学コース1年生による授業「総合的な探究の時間 企業探究発表」にオブザーバーとして参加しました。生徒が地元企業を調査してスライド発表する内容で、当院の紹介には石岡心音さんが登壇。「フクシ未来講座」や「しごとフェスタ」での学びを基に、当院の歴史や地域に不可欠な多施設運営の強みを熱心にアピールしてくれました。若者の視点で魅力を伝えてもらい、大変誇らしく貴重な機会となりました。



新しい介護人材との出会いを求めて

厚生院本部

現役職員が仕事の魅力を伝承! 大妻高校進路ガイダンスで大盛況

令和7年10月15日、函館大妻高校で開催された進路ガイダンスにブースを出展しました。2年生106名が参加する中、当院のブースにも約30名の生徒が来訪。奨学金制度やインターンシップの紹介に加え、今回は同行OGの百楽園上川原介護福祉士も協力し、現場での具体的な仕事内容ややりがいを直接生徒たちへ伝えました。熱心に耳を傾ける生徒たちの姿が印象的で、福祉の魅力をより身近に感じてもらう大変有意義な時間となりました。



新たな看護人材確保へ向けて

看護専門学校

未来の看護師さん集まれ! 遺愛高校の進路説明会で学校の魅力を伝承

令和7年12月9日、遺愛女子高等学校の進路説明会に看護学校のブースを出展しました。当日は看護の仕事や進学に興味を持つ1・2年生の生徒約30名が来訪。参加した職員は、学校の特徴や学習環境、将来のキャリアについて様々な角度から分かりやすくアピールしました。真剣な表情で説明を聞く生徒たちの姿が印象的で、未来の看護人材の育成に向けた貴重な機会となりました。





労働慣行

Corporate Social Responsibility

地域の若い力へ呼びかける

地域の大学に学びの場を提供

厚生院本部

市社協と連携し大学へ学びの場を提供 多機能な施設巡りで福祉の理解深める

令和7年10月23日と30日の両日、北海道教育大学函館校の学生を対象に「ソーシャルワーク論III」の講義を行いました。斉藤教授からの相談を機に市社協と連携し、百楽園や包括たかおか、永楽荘、高丘寮などの施設を学びの場として提供。役割の異なる現場の見学を通じ、福祉や相談援助への見識を深めてもらいました。30名ほどが参加し、事後アンケートでは「実際の現場を見て勉強になった」と嬉しい感想が寄せられました。



ソーシャルワーク論III

ソーシャルワークの基本的な理論と実践方法を理解することを目的に、ソーシャルワークの展開過程、方法、機能と構造などを学習する科目です。



中学生に向けた医療体験

ななえ新病院

地域一体で未来の人財を育成 ななえ新病院が中学生へ体験学習の場を提供

令和7年10月23日、ななえ新病院にて七飯中学校の職業体験受け入れを行いました。当日は4名の生徒が来院し、検査機器の模擬体験や、リハビリテーション機器を用いた実際の機能回復訓練の体験などに挑戦しました。普段の授業では経験できない医療現場での様々な体験を通じ、病院内の多様な職種や仕事についての見聞を広げる貴重な機会となりました。この学びが今後の成長の一助となるよう、これからも地域へ学びの場を提供し続けます。



地域共生社会の実現に向けた取り組み 第1弾

ケアハウス豊寿

七飯高校の生徒20名がケアハウス豊寿で施設見学と交流を体験

令和7年度、ケアハウス豊寿では地域共生社会の実現に向け、近隣の七飯高校との施設見学ツアーを開催し20名の生徒が参加しました。見学に先立ち、後藤施設長による「厚生院フクシ未来講座」を開講して福祉・介護の魅力を伝承。その後の見学では、高齢者の皆さまと直接触れ合うことで、介護施設の重要性を肌で理解してもらいました。今後も地域社会との繋がりを深めるイベントを企画し、地域貢献と生徒たちの豊かな成長を支える取り組みを展開します。



地域共生社会とは

高齢化や社会の変化に伴い複雑化した地域課題に対し、制度や分野の「縦割り」を超え、住民一人ひとりが主体的に関わり、誰もが安心して地域で生活できる社会を目指すものです。

地域共生社会のコンセプト

地域共生社会は、「支える側」「支えられる側」という固定的な関係ではなく、誰もが支え・支えられる存在であるという考えに基づいています。住民同士や多様な主体が連携し、世代や分野を超えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがいを地域で共に創っていくことを目指します。



地域共生社会に向けた七飯高校との取組

- ① 福祉について学ぶ
- ② 施設見学ツアーの実施
- ③ 高齢者との交流会
- ④ 地域貢献活動の企画・検討
- ⑤ 地域貢献活動イベントを実施
- ⑥ 地域貢献活動の実施結果を基にしたグループワークの実施

多くの学生獲得のために

看護専門学校

100名以上が参加! 看護専門学校オープンキャンパスを開催

令和7年8月2日・5日、看護専門学校のオープンキャンパスに高校生や社会人ら100名以上が来校しました。参加者は校内見学や人形を使った看護体験に挑戦。教員や在校生との交流の場では、実際のノートや電子教科書を見ながら勉強法について熱心に質問する姿が見られました。学校の魅力を多角的に伝えたこのイベントは、令和7年8月5日(火)発行の函館新聞でも紹介され、未来の看護師を目指す参加者にとって有意義な時間となりました。



8月5日発行の函館新聞

ALL厚生院で若い力を育てる

厚生院の全施設をご紹介します

厚生院本部

10月にALL厚生院インターンシップを実施

令和7年10月に「ALL厚生院」としてのインターンシップを開催しました。多数の施設情報を幅広く学べるプログラムは参加生からも好評で、充実した時間を満喫してもらうとともに、高い満足度をいただくことができました。



新たな学生が看護学校へ

看護専門学校

未来の医療を担う新入生を迎え、看護学校で入学式

令和7年4月8日、看護専門学校で第47回入学式を挙行了しました。式には高田理事長、中田中学校長、本橋病院長（いずれも当時）が出席し、新入生へ温かい祝辞を贈りました。新1年生は緊張した表情を見せつつも、真剣な眼差しで式に臨んでいました。ここから始まる新たな出会いと、3年間共に学び支え合う仲間たちの成長を、職員一同で温かく見守ってまいります。看護の道を志す新入生たちの輝かしい第一歩となりました。



より密な各施設の連携

永楽荘

百楽園

ももハウス

キャリアラダー制度に関心 高校生の施設見学が確実な採用成果に直結

令和7年7月24日と8月7日、遺愛高校と知内高校の3年生各1名の施設見学を実施しました。永楽荘や百楽園、ももハウスを巡り、各施設長らが特徴を詳しく案内。生徒たちは熱心にメモを取り、キャリアラダー制度を利用中の職員へ直接質問を投げかける場面もありました。見学後は「職場の雰囲気を感じられた」と笑顔を見せ、この体験をきっかけに両名とも当院へ応募、見事採用へと繋がる嬉しい成果となりました。



市社協とのつながりからフクシ未来講座ノーマリー教室バージョンが実現

包括ゆのかわ

相手の立場を肌で体感 北昭和小の児童がノーマリー教室で福祉を学ぶ

令和7年11月21日、北昭和小学校で包括ゆのかわが「ノーマリー教室」を実施しました。京谷課長が講師となり、福祉の役割や仕事内容をクイズ形式で楽しく紹介。児童たちは熱心に耳を傾け、自発的な質問が飛び交う活気ある授業となりました。さらに手足におもりをつけた高齢者疑似体験も行い、児童が相手の立場に立って考える貴重な機会を提供。今後も地域教育への貢献を続けてまいります。



ノーマリー教室

ノーマライゼーション

ノーマリー教室とは、ノーマライゼーションの理念を地域住民に広めるため、障がい者への理解を深める体験学習を提供する場です。函館市社会福祉協議会が実施しており、車いすや点字、手話、高齢者疑似体験など、様々なプログラムがあります。

ノーマライゼーションとは、「障がいのある人が障がいのない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指す」という理念です。これは、障がいをお持ちの方がありのままに生活できるよう、社会の側が変化するという視点を含んでいます。



労働慣行

Corporate Social Responsibility

医療サービス向上のため

緩和ケアへの取り組みを発表

五稜郭病院

百楽園

道南の緩和ケアを語る!

第7回日本緩和医療学会 北海道支部学術大会で当院職員が発表

令和7年8月30日、函館アリーナに医療・福祉従事者約250名が集い、学術大会が開催されました。当院からは五稜郭病院の大石主任、百楽園の松岡緩和ケア認定看護師が登壇。道南の緩和ケアをテーマに各現場の具体的な工夫を発表し、地域連携の重要性を訴えました。高齢者施設でも看取りケアへの関心が高まる中、さらなる発展へ向けた大きな一歩となりました。



大泉市長と記念写真

入所者のより良い口腔環境をめざした取り組み

永楽荘

永楽荘で口腔ケア研修を開催 専門医から手技を学ぶ

永楽荘にて函館口腔保健センターの加藤先生と西村先生を講師に迎え「出前講座(口腔ケア研修)」が開催され、介護職員10名が参加しました。基礎知識の講義やケアグッズの紹介のほか、スケールを用いた適切な力加減の体験などが行われました。少人数ならではのアットホームな雰囲気や質問もしやすく、歯ブラシの正しい角度などの手技をより丁寧に指導していただく場面も。「非常に勉強になった」と参加職員からも大変好評でした。



適切な歯磨きの圧力をハカリを用いて体験

参加職員からの質問に親身に答えてくれています

函館社会福祉施設連盟主催事業

厚生院本部

接遇スキルとモチベーション向上へ 女性職員を対象に身だしなみ講座を開催

令和7年度の函館社会福祉施設連盟主催の研修事業として「rejoice」オーナーの梅原麗奈先生を講師に迎え、接遇研修「いきいき働く女性のための身だしなみ～清潔感、好印象を与えるメイク術～」を実施しました。これまでの研修とは一味違う実践的な内容で構成され、女性を中心とした約30名の参加者は、メイクのプロによる熱い講義に熱心に耳を傾けていました。職場での好印象に繋がる貴重な学びの場となりました。



梅原麗奈先生



法人教育制度の確立を目指して

厚生院本部

採用時全体研修を刷新、各部門のエキスパートが講師に

令和7年度、採用時全体研修の運営方法を大幅に見直しリニューアル実施しました。従来の約2週間のプログラムを改め、各施設で分散していた共通項目や法的必須科目を本部に集約。施設研修を見学形式へ変更し効率化を図りました。さらに本部職員による規則説明だけでなく、各部門のエキスパート職員を講師に迎えた専門研修も新たに導入しました。組織の枠を超えた全社的な育成体制の構築により、新入職員の円滑な職場適応と質の高い人材育成を強力に推進しています。

- 研修メニュー
- 他己紹介
 - 厚生院について
 - 厚生院運営方針について
 - 厚生院年度事業計画について
 - 就業規則について
 - 給与制度について
 - 人事考課制度について
 - ハラスメントについて
 - 個人情報保護・SNSについて
 - 外国人職員とのコミュニケーション
 - CSRについて



理事長講話

感染管理研修



高齢者虐待・身体拘束

接遇・社会人マナー研修

AED/BLS研修

キャリアラダー研修

施設見学は2日間に凝縮し、高丘地区、赤川・ななえ方面ほか全施設を見学しました。新しくなった定期採用者研修。更に工夫を加えていきたいと思えます。



研修の最後に配属先施設長と共に



百楽園

中央病院

看護学校



ケンゆのかわ

ななえ新病院

ペイアニエス

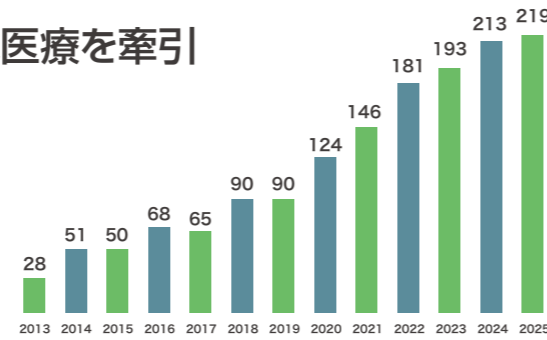
進化する医療テクノロジー

高精度で正確な手術をサポートしています

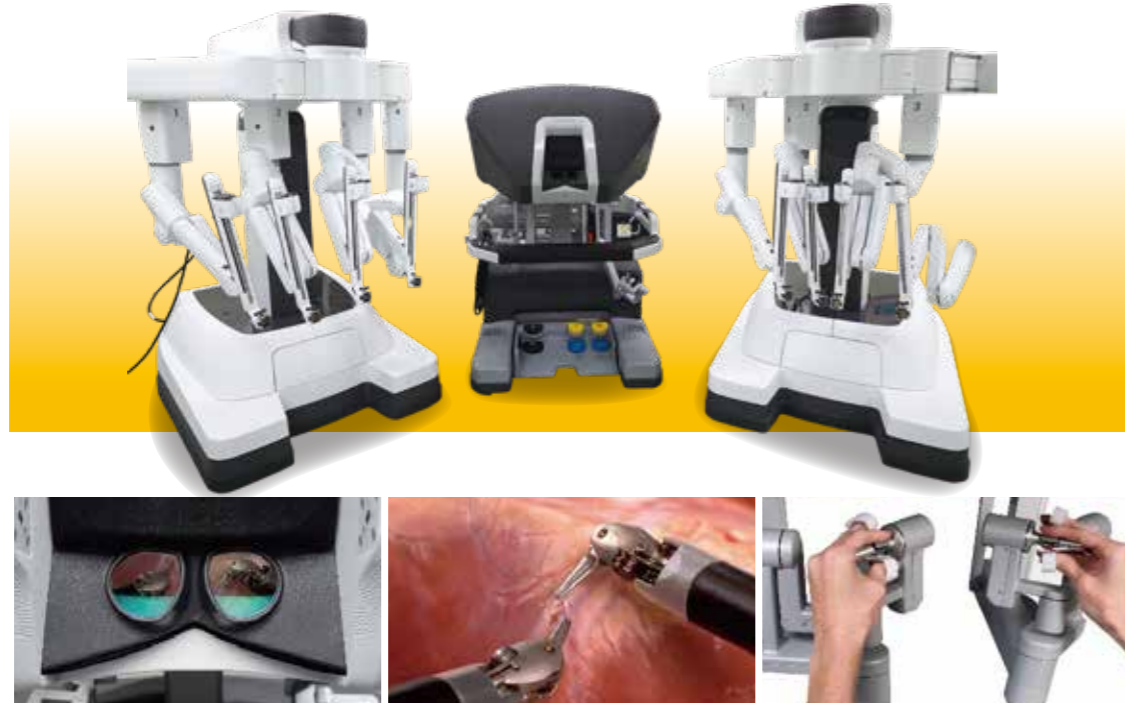
五稜郭病院

手術待機期間を短縮へ 五稜郭病院がロボット増設で地域医療を牽引

五稜郭病院は低侵襲手術へのニーズに応え、令和8年1月1日から手術支援ロボット「da Vinci Xi」を増設し、道南唯一の2台体制を構築しました。このロボット手術は繊細で正確な操作ができるため、開腹手術に比べ身体への負担や痛みが少なく、早期の社会復帰に繋がります。増設により手術の待機期間が大幅に短縮され、住み慣れた地域でより多くの患者さんが高度な医療を安心して受けられる環境を実現しました。



五稜郭病院でのロボット支援手術の件数推移(年度)
※2025年度は2025年12月までの実施と翌年1～3月までの見込みによる実測値



放射線治療の最前線に導入されるテクノロジー

五稜郭病院

最新鋭リニアックを導入 高精度放射線治療センター(HaGRaC)を新設

Hakodate Goryoukaku Hospital
High-Precision Radiotherapy Center

通称: HaGRaC(はぐらっく)



HaGRaC公式ロゴ
-最先端の技術を、包み込むような優しさで、「体にやさしい治療」を象徴する、包み込むような温かいデザインに仕上げました。このロゴが患者様や市民の皆様にとって、安心と信頼のシンボルとして親しまれることを願っています。

五稜郭病院では令和8年3月2日、新型放射線治療装置を北海道内で初導入しました。撮像時間の短縮により患者さんの身体的負担を軽減し、高精細な画像と体表面の立体照合技術で、腫瘍へより正確で安全なピンポイント照射が可能です。さらに転移性脳腫瘍用の最新治療計画ソフトも道内初導入し、認知機能低下のリスクを抑えます。これに伴い「高精度放射線治療センター」を開設。多職種が連携するチーム医療で、質の高いがん治療を提供します。



医師、看護師、放射線技師、医学物理士、事務などのチーム体制強化

光学カメラで精度と安全性向上



労働慣行

Corporate Social Responsibility

総合病院としての取組

手術の安全の向上

中央病院

術中視認性を大幅に向上 中央病院が眼科顕微鏡刷新で高度手術を強化

中央病院では令和7年11月4日、眼科手術用顕微鏡システムを新しく更新し、理事長による検収が執り行われました。この最新システムは眼内をより明るく均一に照らし、手術時の視認性を飛躍的に高めるのが特徴です。特に混濁が強い難症例の白内障や角膜混濁などで優れた威力を発揮します。より鮮明かつ確かな術中画像を確認できるようになり、安全性と確実性が大幅に向上。今後のさらなる眼科手術技術の発展と地域医療への貢献が期待されています。



職員の福利厚生

中央病院

エスコンフィールドのシーズンシートを増席 全職員へ提供

中央病院は令和6年度から、福利厚生としてエスコンフィールドのシーズンシートを契約しています。雇用形態に関わらず全職員が利用でき、令和7年度の3塁側2席に加え、令和8年度からは1塁側2席を新たに増設しました。観戦を通じてファイターズファンになる職員もあり、大変人気を集めています。充実した職場環境が医療の質向上に繋がると信じ、今後も職員と家族が誇りを持って働ける環境づくりを進めてまいります。



市民向けの公開講座で啓蒙活動

中央病院

五稜郭タワーもライトアップ 中央病院が多職種チームで 健康講座を実施

中央病院では令和7年11月14日の世界糖尿病デーに合わせ、「はこだて糖尿病デー2025」を開催しました。五稜郭タワー等のブルーライトアップに加え、市民公開講座を実施。第1部では当院の高橋医師ら専門職チームが糖尿病の治療や生活管理を分かりやすく解説し、第2部では椅子に座ってできる運動「ジャイロキネシス」を体験しました。血糖測定体験や医師によるデータ解説も行われ、参加者が楽しく糖尿病への理解を深める有意義な啓蒙活動となりました。

ジャイロキネシス

近年話題となっているエクササイズメソッドです。このエクササイズは、リズムに合わせた動作で心身のバランスを整えることを目的としています。ジャイロキネシスは初心者から上級者まで幅広く楽しむことができ、体力や柔軟性の向上に寄与します。



セキュリティ強化で情報を守る

五稜郭病院

高度化する医療への脅威に対抗 五稜郭病院がセキュリティ訓練で初動を共有

五稜郭病院では令和8年3月16日、サイバーセキュリティ対策強化と事業継続計画の向上を目的とした「サイバー攻撃対策セミナー」を実施しました。前半の講義で最新の攻撃動向やランサムウェアへの対策を学び、後半のデモンストレーションでは実機2台を用いて標的型メールから感染・ファイル操作に至る一連の流れを再現。攻撃が日常に潜むリスクであることを可視化し、職員の危機意識向上と不審メールへの初動対応の重要性を共有する有意義な訓練となりました。



組織体制の拡充

利用者の食生活を支えます

厚生院本部

資質向上を目指し「栄養士会」を組成

令和7年8月8日、施設栄養士の業務課題の共有と資質向上を目的に「栄養士会」を発足しました。第1回の会議では、災害時のBCP対策に伴う備蓄品の確保や、入所者の身体機能(ADL)に応じた食事形態など、現場に直結する多様なテーマで活発な議論が交わされました。個々のニーズに寄り添った高品質な食事サービスの提供を目指し、今後も法人全体で今後の食事提供のあり方や方向性を検討してまいります。



利用者のケアプランは私たちにお任せ

厚生院本部

より良いケアプランを目指して! 施設ケアマネ会が発足し課題を語り合う

令和7年9月26日、施設ケアマネジャーの業務課題の共有と資質向上を目的に「施設ケアマネジャー会」を発足し、第1回会議を執り行いました。会議では各職員が直面している実践的な疑問や課題について本音で議論を交わし、相互の理解を深めました。入居者一人ひとりの心身に寄り添った最適な個別サービスの提供を目指し、今後もこの会を通じてより良いケアプランの作成と、時代に即した施設運営の方法を多角的に模索してまいります。



求人戦略の共有

厚生院本部

事務担当者会議を開催 経理の統一化とSNS採用への移行を共有



各施設の事務担当者が一堂に会する「事務担当者会議」を開催しました。今回は経理事務における考え方の統一化を図るとともに、中途採用の競争力強化に向けた求人方法の見直しについて情報共有を実施。今後は従来の体制からSNS採用(ソーシャルリクルーティング)へシフトチェンジしていく方針を共有しました。参加した担当者たちは、今後の戦略へ熱心に耳を傾けていました。業務の効率化と効果的な人材獲得へ向け、法人全体で新たな事務・リクルート体制の構築を推進します。

より良い法人連携体制へ

厚生院本部

「法人連携会議」が始動 各施設の現状を共有し収益確保へ議論



法人内の連携を円滑かつ能率的に行うため、医療・介護連携に係る重要事項を審議・検討する「法人連携会議」を組成しました。第1回会議では会の目的や方向性をメンバー内で共有し、連携強化の基盤を構築。続く第2回会議では、具体的に「法人として収益をあげるためにはどのような手段を講じていくべきか」をテーマに掲げ、各施設の現状を確認しながら活発な議論を交わしました。今後もこの会議を通じ、より強固な連携と健全な経営基盤の確立を目指します。



世代を超えた環境づくり

ものを大切に育てる

包括ゆのかわ

包括の廃材を再利用 小中連携で製作したベンチを町会活動へ寄贈

地域の担い手と繋がることを目的に活動する深堀小学校「地域協力隊」が、東深堀町会へ手作りベンチを寄贈しました。包括ゆのかわの廃材を利用して深堀中学生が組み立てた土台を引き継ぎ、小学生たちが仕上げの塗装を担当。完成したベンチを町会へ贈りました。参加した6年生は「子どもやお年寄りが楽しくおしゃべりするベンチにしてほしい」と笑顔で話し、小中の連携と包括の支援によって温かい世代間交流の輪が形となりました。



清掃活動に参加①

包括ゆのかわ

きれいな湯浜の海を次世代へ! 地域で取り組む環境美化活動

包括ゆのかわでは、湯浜町会と駒場小学校の児童を繋ぎ、合同での海岸清掃活動をサポートしています。児童たちは地域の方々と親睦を深めながら、熱心にゴミ拾いに取り組みました。この活動は、海に捨てられたゴミが海洋生態系に与える影響について、子どもたちが身近に考える大切な環境教育の場ともなっています。



出発前に全員で函館市環境部の方のお話を聞いてから活動開始

清掃活動に参加②

包括ゆのかわ

芽生える地域への愛着 深堀中学生が活躍する「クリーングリーン作戦」

包括ゆのかわでは、町会の清掃活動と深堀中学校を繋ぎ、生徒の自主的なボランティア活動をサポートしています。近年は継続して参加する生徒が増加しており、清掃をきっかけに町会や地域活動へ興味を持つ頼もしい姿が見られるようになりました。中学生が地域の一員として主体的に貢献する経験は、未来の街づくりへの大きな一歩です。



災害に備えて

全国規模の訓練に参加しました

五稜郭病院

地域の命を守る砦として 大規模地震時医療活動訓練の実施

令和7年9月5日・6日の2日間、五稜郭病院をメイン会場に内閣府主催の「大規模地震時医療活動訓練」が実施されました。千島海溝周辺での巨大地震を想定し、全国から約200名のDMAT※が参集。函館市で震度6弱の地震が発生した想定のもと、近隣病院からの重症患者搬送など、2時間で約130名の傷病者を受け入れる緊迫したトリアージ※訓練を行いました。全国規模の訓練を通じて多くの課題や反省点も見えましたが、非常に有意義な経験となりました。この貴重な経験を活かし、地域の皆様が災害時にも安心して頼れる「災害に強い病院」を目指し、医療体制の強化に努めてまいります。



※DMAT(ディーマツト)

災害派遣医療チーム
Disaster Medical Assistance Team

大地震などの災害時に、迅速に活動できる専門的なトレーニングを受けた医療チームのことです。厚生労働省「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」※と定義されています。

※平成13年度厚生科学特別研究
「日本における災害時派遣医療チーム(DMAT)の標準化に関する研究」報告書より

※トリアージ

災害時など多数の傷病者がいる場合、治療の緊急度や重症度に応じて治療の優先順位をつけることです。



総合的な在宅支援事業

ななえ新病院では、地域の皆様が少しでも安心して住み慣れた我が家で暮らし続けられるよう、多様な在宅支援事業を強化しています。訪問診療や訪問看護をはじめ、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなど、お一人おひとりの生活に寄り添ったサービスを展開。医療と介護が緊密に連携することで、退院後の生活やご自宅での療養を24時間体制でバックアップできる環境を整えました。これからは地域の皆様の「家で暮らしたい」という願いに寄り添い、困ったときにいつでも頼れる身近なパートナーとして、安心の医療・介護を届けてまいります。



在宅介護の充実

利用者へのより質の高いケアの提供

ケンゆのかわ

一人ひとりに最適なケアを 職員2名が「アテントマイスター・プロ」を取得

ケンゆのかわでは、ご利用者一人ひとりの身体状況に寄り添った介護を目指しています。このたび、当施設の職員2名が大王製紙(株)の認定資格「アテントマイスター・プロ」を取得いたしました。この資格は、紙おむつの正しい選び方や適切な排泄サポートに関する高度な知識を持つ専門家に与えられるものです。資格を持つ職員が中心となり、ご利用者それぞれの状態に合わせた最適なケアをご提案することで、お肌のトラブルを防ぎ、日々の生活の安心感を大きく高めてまいります。

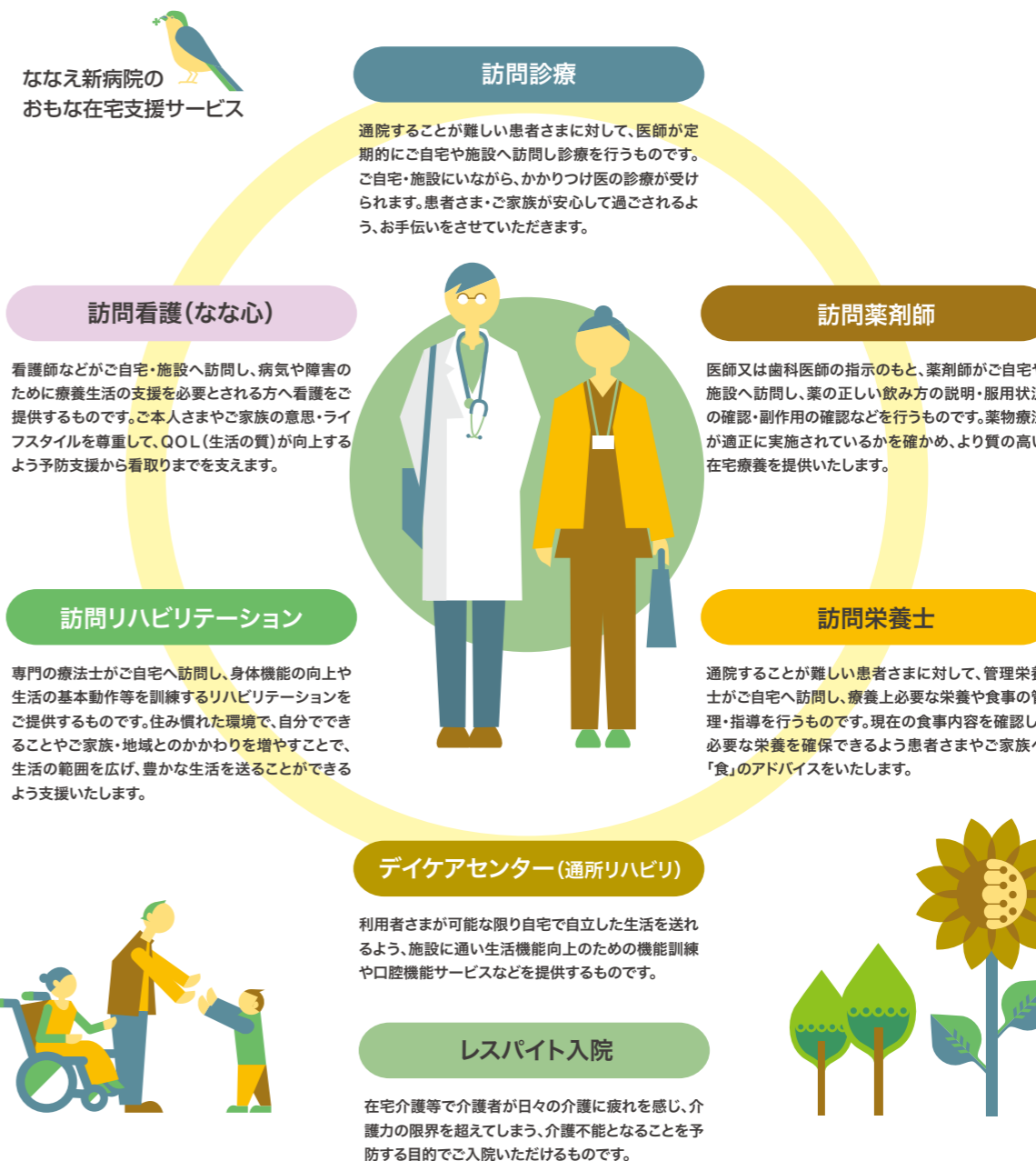


資格を取得した中演介護福祉士(左)と村川看護師(右)



大王製紙株式会社ホームページより

「アテント」は超高齢社会が進む日本において、「ひとりひとり、ひとりにしない」というスローガンとともに、誰もが孤立せず、頼れる場所があり、助け合える、地域共生社会の実現に向けた取り組みをはじめます。2017年より、病院・介護職員などにアテントの紙おむつの正しい使い方や、排泄に関するアドバイス・提案・サポートについて正しい知識を習得してもらうことを目的に「アテントマイスター・プロ」という資格を認定する取り組みを進めています。2025年2月現在、10,024名の「アテントマイスター・プロ」を認定しており、2030年度までに22,000人の資格取得を目標としています。「アテントマイスター・プロ」の取り組みを通して、介護する人・される人どちらにとっても、「安心」で「快適」に「自己表現」できる排泄ケアを目指していきます。





消費者課題

Corporate Social Responsibility

地域での医療活動

ALL厚生院で苦情解決に向けた取り組みを

厚生院本部

安全な介護・福祉を支える全施設合同の拡大WRM委員会

厚生院では、地域の皆様に安心してご利用いただけるよう、組織一丸となって安全管理の徹底に努めています。その一環として、各施設の医療・介護安全の担当者が一堂に会する「拡大WRM委員会」を毎年開催しています。新型コロナウイルスの影響による自粛期間を経て、令和6年度より対面での集まりを本格的に再開いたしました。当日は、1年間の取り組みの総括やALL厚生院での方針のすり合わせに加え、各地区の現状を踏まえた様々な課題について活発な議論が交わされました。

WRM = Welfare Risk Management 介護福祉の現場において、事故やトラブルを未然に防ぎ、安全なサービスを提供するための管理体制のこと。



JKA補助事業

中央病院

検診バスが納車

中央病院に新しい検診バスが納車になり、8月4日に理事長による検収を行いました。この検診バスは「胃胸部併用デジタル検診車」という正式名称で、胸部レントゲンはもちろんのこと、バリウム検査もできる機能(CT装置)を備えています。JKA補助事業であり、令和3年9月の理事会承認を基に補助金申請→補助金決定通知の受理→入札を執行し、業者決定→売買契約の締結まで順調に進んでいました。しかし、同時期にベースとなる車種(日野自動車製)に不正行為が発覚。問題解決のため、入荷時期が遅れる状況となりました。更に、運送車種の保安基準の一部改正も重なり、新基準を満たすために更に納期が延長となりましたが、この度、無事、新基準などをクリアし、納車となりました。補助事業の場合、通常、当該年度の事業完了が原則とされていましたが、今回の件に関しては新聞等でも報道もあった大きな出来事で、全国の検診バスで補助金申請をしている全ての企業が同じ状況であったことから、JKA側も納車時期の変更について承認しています。



[JKAとは]公益財団法人JKA(ジェイケーエー)は、公営競技の競輪とオートレースを統括する国民の健全なる余暇を推進する公益法人です。JKAの名称は、JRAが日本中央競馬会(Japan Racing Association)の略称であるとは異なり、競輪(Keirin)に関する自転車(Jitensha)、オートレース(Autorace)に関する小型自動車(Kogata jidosha)の表記を混在させるための措置(全ての語で「J」「K」「A」が頭にく)で、正式名称となっています。

市民参加の大会をバックアップ

中央病院

街の一大イベントを医療で支える 中央病院ランナースクラブ

初夏の函館を颯爽と駆け抜ける「2025函館マラソン」には、過去最多の約8,800名がエントリーしました。中央病院では、大会の安全な運営を支えるため、平成29年から毎年10名程度の職員が「メディカルランナー」として参加しています。ハーフ・フルの各コースを一般ランナーとともに走行し、体調不良などの不測の事態に備えています。医療従事者だからこそできるサポートで、大会の安全・安心な開催を足元から支え続けます。



地域連携による搬送体制の拡充

五稜郭病院

救急救命士の力を結集し進化を続ける ドクターカー事業

五稜郭病院のドクターカー事業が本格的な拡大期を迎えています。令和7年度の総出動件数は273件に達し、前年度比で約60%の大幅な増加を記録しました。対応エリアを北斗市や七飯町まで拡大した「迎え搬送」に加え、連携先が7病院へ広がった「救急患者連携搬送(送り搬送)」を推進しています。この広域的な連携により、患者様はご自身の病状や回復ステージに最も適した環境で治療を継続できるようになり、当院も急性期病床を常に確保して次の救急患者様をスムーズに受け入れる体制が整いました。また、平時の地域貢献として函館マラソン等への医療救護派遣を継続する一方、災害時には本車輻がDMATの活動車輻へと切り替わります。令和7年度には、運用を担う救急救命士3名全員が日本DMAT隊員の資格を取得し、災害派遣体制もより強固なものとなりました。今後も搬送基準や情報共有の精度を高め、道南医療圏の救急医療の質向上と、日本の災害医療を支える確固たる機動力となれるよう邁進してまいります。



令和6年度・令和7年度の搬送実績比較

項目	令和6年度	令和7年度	増加数	前年比
迎え搬送	91件	163件	72件	約79%増
送り搬送	80件	110件	30件	約38%増
総件数	171件	273件	102件	約60%増

(参考)搬送件数・連携病院数・医療救護派遣に関する内容は提示データに基づく。救急患者連携搬送の説明は、厚生労働省「令和6年度診療報酬改定の概要」および診療報酬項目 C004-2 救急患者連携搬送料を参考に作成。



コミュニティ参画

Corporate Social Responsibility

企業とのコラボ企画

おいしいコーヒーで利用者さんにやすらぎを

包括たかおか

高丘寮

タリーズコーヒー×厚生院 コラボ企画

7月2日、タリーズコーヒーとのコラボ企画である「コーヒースクールwith包括たかおか」を函館市旭岡図書館(旭岡2丁目団地集会所2階)で開催しました。当日は、西旭岡町に在住の方を中心としたNPO朝日の丘サロン(旭岡2丁目団地集会所を活用した地域の方々が集まりおしゃべりできる場)のメンバー24名が参加するなか、タリーズコーヒー五稜郭病院店 榎木店長(タリーズコーヒーのパリスタコンテスト全国大会3位を受賞)をはじめ、スタッフの方々からコーヒーの美味しい淹れ方やコーヒー豆を保存する上での注意点等を教えていただきました。その後、アドバイスをいただきながらハンドドリップ体験や、3種類のコーヒーの飲み比べを行いました。各コーヒーの原産地や特徴についての解説をいただきながら、それぞれに合うお菓子と共に美味しいコーヒーを味わうなど、楽しいひと時を過ごしていました。



高丘寮でタリーズコーヒー(五稜郭病院店)とのコラボ企画第2弾「タリーズコーヒースクール高丘寮」が開催となりました。高丘寮のご入所者73名が参加する中、タリーズコーヒーのパリスタコンテスト北海道・東北ブロック優勝、全国大会3位を受賞した五稜郭病院店 榎木店長をはじめ、スタッフの方々にコーヒーの美味しい淹れ方を実演いただきました。その後、実際にハンドドリップの体験や、世界三大原産国のコーヒーの飲み比べを行いました。ご入所者たちは原産国を予想しながら、シフォンケーキと共に美味しいコーヒーを堪能するなど、楽しいひと時を過ごしました。



地域への開放と地域貢献活動と異文化交流

百楽園

無印良品とのコラボで笑顔が広がる サテライト百楽園の移動販売

百楽園では、パブリックスペースを地域へ開放し、無印良品と連携した移動販売イベントを推進しています。令和7年7月21日の開催では、人気ベーグル店の出店や、外国人職員によるインドネシアの「クレポン」などの手作り伝統菓子の紹介も行われました。この企画は、4月に配属された新人職員と外国人職員が主軸となって準備を重ねたもので、業務を通じた多文化共生への確かな一歩となりました。食品や日用品が並ぶ特設会場には多くの地域住民やゲストの方々を訪れ、買い物を楽しむ姿が見られました。



入居者が施設内で買い物を楽しむ

ケアハウス豊寿

永楽荘

施設にしながら店舗の楽しさを味わう ユニクロ出張販売

ケアハウス豊寿、永楽荘では入居者の皆様が日々の生活の中でワクワクする体験を楽しめるよう、新たな取り組みを進めています。その一環として、このたびユニクロ(函館昭和店)とのコラボ企画「ユニクロ 出張販売会」を開催いたしました。当日は会場に、店舗で実際に販売されている多種多様な衣類や小物がずらりと並びました。参加された皆様は、施設にしながら本物の店舗を訪れたかのような本格的な買い物を楽しまれ、笑顔があふれる特別な一日となりました。



ユニクロ山本さんと後藤施長・森相談員

関連施設とのコラボ

感染予防対策を東深堀町会へ

包括ゆのかわ

五稜郭病院とのコラボで学ぶ お茶っこひろばの感染予防講座

包括ゆのかわでは、東深堀町会員の皆様の介護予防や交流を目的に、集いの場「お茶っこひろば」を開催しています。今回は五稜郭病院の感染情報管理室とコラボレーションし、市営深堀団地集会所にて「知っておきたい感染予防対策」についての講座を実施しました。専用のジェルと機械を用いた手洗い研修では、想像以上に汚れが落とせていない現実に参加者の皆様から驚きの声が上がっていました。体験を通して正しい手の洗い方を楽しく再確認できる貴重な機会となりました。



早速活動を開始しています。

包括ゆのかわ

ケンゆのかわ

栄養士会のお惣菜が完売し大盛況となった 湯浜町会の文化祭

令和7年11月3日、4月に組成した法人栄養士会が湯浜町会文化祭に参加しました。町会員の高齢化で継続が危ぶまれていた名物の惣菜販売について包括ゆのかわに相談があり、栄養士会が食事提供を引き受ける形で実現しました。当日は朝早くから準備したおにぎりやおかず計120個が完売。会場ではバザーやカラオケ大会に加え、包括の相談ブースやケンゆのかわによるフレイル予防ブースも賑わい、多くの住民で大盛況となりました。この心温まる地域連携の様子は、11月7日の函館新聞にも大きく掲載されました。



もし視力が落ちてきたらに備えて

百楽園

100円ショップの活用術に 納得の声が上がった日常生活支援講座

デイサービスセンター百楽園では、ご利用者が日々をより快適に過ごせるための学びの場を提供しています。このたび、函館視力障害センターの職員を講師に迎え、視力が弱まっている方のための日常生活支援グッズ紹介イベントを開催しました。100円ショップで手に入る身近なアイテムを活用し、調理や読書を快適にする工夫が紹介され、参加者からは「ぜひ試したい」と歓声が上がりました。地域の専門機関を知る有意義な機会となり、今後も視力に不安を持つ方やご家族が気軽にお悩みを相談できるよう、地域との橋渡しを続けてまいります。



次世代との交流をとおして

永楽荘での楽しいイベント・異文化交流

永楽荘

市立函館高校とのイベント

チアリーディング部と永楽荘の交流

永楽荘にて市立函館高校チアリーディング部によるダンスパフォーマンスが開催されました。昨年に続く訪問となった今回は、昭和・平成を彩った懐かしの選曲で構成され、会場に集まった80名を超える参加者は大いに盛り上がりました。高校生たちが音楽に合わせてエネルギッシュに踊る姿に、ご利用者の皆様からは「最高！素晴らしい！」とお見事の歓声が次々と沸き起こりました。若い世代からたくさんのパワーをもらい、心華やぐ特別なひとときとなりました。



インドネシアの魅力を英語で伝えた永楽荘と高校生の国際交流

チアリーディング部顧問の先生が国際交流部 (ICC) も兼任されていることから、永楽荘の技能実習生が市立函館高校を訪れ異文化交流会を実施しました。会ではイフィさんとノヴィさんの2名が、英語で母国インドネシアについてスライドを交えながら分かりやすく説明。高校生たちと親睦を深める有意義な時間となりました。



遺愛高校生徒によるクリスマスの素敵なイベント

永楽荘

涙と笑顔で心を通わせた遺愛生と永楽荘のクリスマス交流

令和7年12月11日、永楽荘にて遺愛女子高校の生徒40名によるキャロリングが開催されました。「きよこの夜」などの美しい合唱が披露され、会場は一足早く温かなクリスマスムードに包まれました。歌の後は、入居者の皆様から生徒へお菓子のプレゼントを手渡し、生徒からは手作りのポストカードが一人ひとりに贈られました。心のコもった贈り物に、思わず涙を流して喜ばれる入居者様もあり、深く記憶に残る温かい交流の時間となりました。

キャロリングとは
クリスマスシーズンにイエス・キリストの降誕を祝うため、賛美歌やクリスマスソングを歌いながら街を歩いたり、家々を訪ねたりする活動のことです。教会に属する人々だけでなく、地域の子どもたちや学校の生徒たちも参加することがあります。



フクシの心を地域住民へ

永楽荘

冬休みの子どもたちと笑顔で繋がった厚生院フクシ未来講座

上野町会と高丘町会の子どもたち13名を対象に「厚生院フクシ未来講座」を開講しました。「SDGs」をテーマにした学びをはじめ、冬休みの宿題を職員やご利用者と一緒に取り組む温かい時間が流れる開催となりました。さらに、永楽荘の書道クラブメンバーのご利用者とともに、今年の目標や干支をしたための書初めを行い、世代を超えて楽しいひとときを共有しました。このような多世代交流は、地域の安心感とご利用者の生きがい作りに深く繋がっています。



祭りだワッショイ

夏の一大イベントにALL厚生院で

厚生院本部

創立125周年の節目にALL厚生院
1,000名が舞った函館港まつり

YouTube動画



函館の夏の風物詩である港まつりが開催され、当グループは「ALL厚生院」として6年ぶりに参加いたしました。創立125周年という節目の年に、五稜郭病院、中央病院、ななえ新病院、看護学校など、各施設から約1,000名の職員が集結。当日は天候にも恵まれ、千代台から道新前まで山車の音頭に合わせて、スティックパルーンを振りながら一体感あふれる踊りを披露しました。沿道の皆様からの温かい声援を受け、職員も地域との繋がりを深く実感する楽しい時間となりました。



全員でちからを合わせて

厚生院本部

ワッショイはこだて成功のために

① ALL厚生院 いか踊り実行委員会

高田前理事長の「ワッショイはこだてにALL厚生院で出してみても」という一言をきっかけに、病院・各施設の代表者が集結。合同での参加方法について何度も検討を重ねることで、グループの強固な連携体制と地域を盛り上げる大きな活力を生み出しました。



② イベント実行委員会

法人横断的な親睦を目指して結成したイベント実行委員会。初陣となった「ワッショイはこだて」の成功に向け、決定事項の周知や施設間調整などの準備を重ね、当日の笑顔あふれる一体感へと繋がりました。



ALL厚生院でイベント参加

厚生院本部

1300個の餃子がスピード完売した ALL厚生院での総合福祉センターまつり

令和7年8月17日、「第29回総合福祉センターまつり(あいよる21)」が開催されました。これまで各施設が個別に参加していましたが、今年からは「ALL厚生院」として、イベント実行委員会が屋外に特設の餃子屋さんブースを出店しました。多くの地域住民の皆様で賑わうなか、当院ブースも大盛況となり、準備した1,300個の餃子は想像以上の早さで完売。食を通じて、地域の皆様と笑顔で繋がる温かい一日となりました。



夏の一大イベント

永楽荘

高丘寮

百楽園

包括たかおか

地域を熱く盛り上げた 4施設合同夏祭り



令和7年8月27日、毎年恒例の四施設合同の夏祭りを開催しました。今年はキッチンカーや無印良品など計4店舗を新たに迎え、時間差来場による混雑解消に努めながら実施しました。ご利用者のかき氷などの定番メニューを心ゆくまで楽しめました。夕方からの一般開放では、遺愛高校と大妻高校の学生ボランティアの協力もあり会場は一気に活気づき、500名分の無料チケットが配布終了となる大盛況の開催となりました。



高丘模擬店

百楽園模擬店

永楽荘模擬店

地域社会での共生

認知症のための「みかんカフェ」で知識を深める

包括たかおか

認知症の理解と音楽の調べを楽しむ 「海辺のみかんカフェ」

大願寺(函館市銭亀町101)にて認知症カフェ「海辺のみかんカフェ」を開催し、地域住民の皆様など総勢58名が参加しました。当日は中央病院の認定作業療法士による認知症をテーマにしたミニ講話や、函館市民オーケストラ奏者によるコントラバスの美しい演奏が行われました。認知症の方やご家族、地域住民の皆様が共に病気への理解を深め、音楽を楽しみながら和やかに交流できる安心と笑顔あふれる時間となりました。



講話

コントラバス演奏

交流タイム

お薬の学びとサクスの音色を楽しむ 「丘の上のみかんカフェ」

令和7年7月12日、包括たかおかにて認知症カフェ「丘の上のみかんカフェ」が開催され、総勢49名が参加しました。4回目となった当日は、そうごう薬局の薬剤師によるお薬についてのミニ講話や、サクソフォーンによるミニコンサートが行われました。認知症当事者の方々も参加され、美しい音楽を聴きながら穏やかな雰囲気の中で和やかに交流し、病気への理解を深める安心と笑顔あふれる有意義な時間となりました。



認知症のお薬についての講話

ミニコンサートの様子

チームみかんのメンバー

カフェタイムを楽しむ参加者たち

高丘町の地域住民との交流

高丘寮

永楽荘

高丘寮のいも畑に元気な歓声が響いた 学童保育のいもほり体験

高丘寮では毎年、高丘幼稚園と温かい交流を続けています。今年は日常の会話から生まれた新たなご縁により、9月に学童保育の子どもたちを迎えた「いもほり体験」が初めて実現しました。やる気いっぱい畑に入った子どもたちは、大きな芋を見つけるたびに大歓声を上げ、終了の合図が出るまで夢中で掘り続けました。たくさん収穫に恵まれたこの活動は、地域の子どもたちへ笑顔と元気を届ける素晴らしい機会となりました。



高丘小学校の学芸会ステージが永楽荘へ笑顔と元気を届ける

永楽荘にて高丘小学校の児童による演劇やダンスの披露が開催されました。今回は、学校の学芸会で好評を博した本格的な演目を披露していただきました。児童たちが一生懸命に演じる姿に、ご入所者の皆様は大きな手拍子を送ったり、お馴染みの歌詞と一緒に口ずさむなど、終始笑顔のあふれる和やかで楽しいひとときを満喫されていました。



開設を記念してさらに一致団結



ケアハウス豊寿

大正琴の音色と豪華な松花堂弁当で祝う ケアハウス豊寿の記念祭

令和7年6月26日、ケアハウス豊寿にて七飯町への移転後19回目となる開設記念祭を開催しました。今年は大正琴サークル「ゴールデンローズ」を招き、童謡「ふるさと」など懐かしい名曲の数々を披露していただきました。入居者の皆様は豪華な松花堂弁当を堪能しながら、音楽に合わせて一緒に歌うなど和やかで楽しいひとときを満喫されました。



ゴールデンローズによる大正琴の演奏

【豪華な松花堂弁当 開設記念祭献立】

- ・かに飯・海老のチリソース・さばの南蛮漬け
- ・錦糸しゅうまい・ヒレカツ・なす田楽・合鴨スモーク
- ・かにの重ね蒸し・いかのマヨ和え・白花豆
- ・すまし汁(生麩・みつば)・フルーツ盛り

高齢者の健康促進のため

地域交流と健康増進①

包括ゆのかわ

予防と体づくりを楽しく学ぶ地域の「さわやか講座」

包括ゆのかわでは、地域の高齢者の皆様が元気に自立した生活を続けられるよう、毎月1回、定期的にユートピア川原集会所を訪問して「さわやか講座」を実施しています。講座では、季節の変わり目に気を付けたいことや効果的な水分摂取といった実践的なミニ講話をはじめ、階段を昇れる体を維持するための体操指導などを行っています。



体操の様子

地域交流と健康増進②

包括ゆのかわ

脳の活性化と夏の体づくりを楽しく学ぶ「脳いきいき講座」

包括ゆのかわでは、湯浜町在宅福祉委員会の皆様を対象に、脳の活性化を目指す「脳いきいき講座」を定期開催しています。夏季には、熱中症予防や夏を乗り切る体づくりをテーマにした実践的な講話を実施。さらに、日常生活に役立つくみ・腰痛予防体操なども行っています。健康知識を深めながら、参加者同士が笑顔で言葉を交わす大切な交流の場にもなっています。



体操の様子

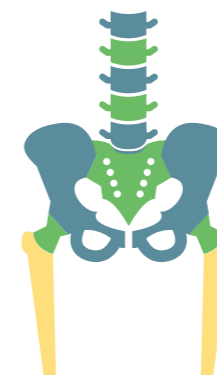
レクリエーション

地域交流と健康増進③

ケンゆのかわ

ケンゆのかわ 東深堀町会へ出前講座

包括ゆのかわでは、東深堀町会の皆様を対象に、介護予防や住民交流を目的とした集いの場「おちゃっこひろば」を定期開催しています。6月24日の回では、ケンゆのかわのリハビリスタッフによる「骨盤底筋体操」のレクチャーが行われました。尿失禁予防などに役立つ実践的な内容に、参加者からは「とても役立った」と好評を得ています。また、技能実習生たちがインドネシアの伝統的なダンスを披露し、その美しい演舞に会場は大いに盛り上がりました。後半の茶話会では、専門職による講話の余韻を楽しみながら、住民同士の親睦を深める和やかなひと時となりました。今後も様々な専門家と連携し、心身ともに元気になる場づくりを目指していきます。



骨盤底筋体操
骨盤底筋を鍛えながら尿道括約筋の機能回復をはかる体操のことです。毎日の継続により、尿道や肛門が引き締まり、しだいに尿漏れの頻度は少なくなることが期待されています。



(左から) レトノさん・メイヤさん・フィトリさん



オーラルフレイル 予防の講話

皆で体操



意見交換

参加メンバーで記念写真

子育て支援と健康促進

子育てを応援しています

中央病院

こども子育て支援室の取り組み

令和7年度も中央病院のこども子育て支援室では様々な取り組みを行いました。

① 大好評おさがりコーナー

子どもの成長は早く、綺麗な衣服が自宅に眠ってしまうご家庭も多いと思います。中央病院のこども子育て支援室では、そんな子育て世帯に大好評の「おさがりコーナー」を常設しています。さらに定期的にInstagramを更新し、現在どんな衣服があるのかをリアルタイムで発信中。必要なものが、ぴったりなサイズを必要とする方へしっかりと届くよう、私たちはこれからも地域の子育てを支える温かい橋渡し役を担ってまいります。

② 写真展「みんなとくべつなひとり」を開催

中央病院では、医療的ケアが必要な方々とそのご家族の写真や文章を募り、「みんなとくべつなひとり」写真展を開催しました。互いの個性を尊重し共生するインクルーシブな社会の実現に向け、身近な多様性への理解を促す契機となりました。また、最終日には「こども秋まつり」を同時開催。こども子育て支援室が中心となり、ヨーヨー釣りなどの縁日を設置し、訪れた子どもたちや保護者、スタッフの笑顔が溢れる温かい一日となりました。



美味しく健康な食生活

包括ゆのかわ

ケンゆのかわ

ケンゆのかわと包括ゆのかわが共同で届ける フレイルと熱中症の予防レッスン

令和7年7月1日、日吉町東部町会員の皆様を対象に、健康的な食事への理解を深める出前講座をケンゆのかわと包括ゆのかわが共同で開催しました。当日はケンゆのかわの岩田管理栄養士がフレイル・熱中症予防の講話を行い、その後は調理実習を実施。チョコバナナ蒸しケーキなど、火を使わず電子レンジで簡単に作れるメニューを紹介し、「家でも試したい」と大好評の、笑顔と安心が広がる温かい講座となりました。



岩田管理栄養士の講話の様子

フレイル

加齢に伴い筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になる手前の健常と要介護の中間の状態のこと



調理実習の様子

道南・函館地域の皆様へ向けた医療啓発活動

五稜郭病院

最新のがん治療を専門医が 分かりやすく解説した市民公開講座

五稜郭病院では、地域がん診療連携拠点病院として医療啓発活動を定期に実施しています。8月22日、Gスクエアにて「子宮がん・乳がん」をテーマにした市民公開講座を開催しました。当院の専門医に加え、順天堂医院の九富教授を講師に招き、最新治療の最前線について詳しく解説。休憩時にはヴァイオリンなどのプチコンサートも行い、参加した住民の皆様へ確かな知識と癒やしのひとときをお届けする安心の場となりました。



「育英基金」について

くるみ学園

※育英基金は、卒園児童の進級も対象としています。

在籍する児童が大学や専門学校へ進学を希望するも金銭的な理由等により進学が困難となる者が生じた場合等に対応するため、くるみ学園では「育英基金」を創設し、対象児童に育英資金を支給しています。育英基金は、昭和57年に「函館心の里親会」当時会長の土井多紀子氏から350万円の御寄附により創設されました。児童養護施設で生活する児童は、金銭的な理由等から高校卒業と同時に大半は就職をしていた状況でしたが、近年は育英資金の活用が進み、多くの児童が育英資金により進学することが出来る状況になっています。令和7年度も3名の児童が育英資金の給付を受け、進学・進級しており、支援をしてくださる企業や市民の方々からの御寄附があったからこそと改めて御礼申し上げます。今後も児童が将来の目標を持ち、大学や専門学校に進学できるよう支援を継続していきたいと考えております。

■くるみ学園 児童への育英資金給付状況

令和7年度 1,500,000円 ■大 学(進級1名・進学1名) ■専門学校(進級1名)	令和6年度 2,000,000円 ■大 学(進級2名・進学2名)	令和5年度 2,500,000円 ■大 学(進級3名) ■専門学校(進級1名・進学1名)
令和4年度 3,000,000円 ■大 学(進級3名・進学1名) ■専門学校(進学2名)	令和3年度 3,000,000円 ■就 職(1名) ■大 学(進級1名・進学2名) ■専門学校(進学2名)	令和2年度 1,100,000円 ■大 学(進学1名) ■専門学校(進級1名) ■災害支援(1名)

■令和7年度 育英基金へのご支援者一覧

皆様のご支援に感謝いたします

広報誌等に掲載可能であることを確認できた方のみ氏名等を掲載させていただいております。

ガンバレ!太陽の子どもたち チャリティーキャンペーン参加者

茂田井 尚子

JAIFA函館協会 会長 小野寺美樹

一般財団法人 日本児童養護施設財団

トヨタレンタリース函館

他十数名(敬称略)



■育英基金へのご支援受付口座

ご支援を受け付けております

北洋銀行 五稜郭公園支店
店番号 328 普通預金 4204548
函館厚生院 くるみ学園 園長 村瀬 優

資料編

厚生院グループ法人データ

各病院・施設のデータ

ISO対照表



Corporate Social Responsibility

Corporate Data | 厚生院グループ法人データ

総事業数

- 病院 ■看護教育
- 児童福祉・育児支援
- 入所サービス
- 通所・訪問・居宅ケア
- 地域相談窓口

40事業

総敷地面積

235.04 千㎡

サービス活動収益

40,942 [令和7年度]
百万円

総職員数

2,947名

男性 **802名**
女性 **2,145名**

家族も含めると
6,000人余を抱える
函館市では市役所に
次いで2番目の
大所帯です

職種別

- 医師……………213名
- 看護職員……………1,215名
- 介護職員……………386名
- セラピスト……………158名
- その他医療資格者……………275名
- 事務職員その他……………700名

ワークライフバランス

- 産休・育休取得者数……………83名
 - 院内保育所利用園児数……………110名
- (函館中央病院・函館五稜郭病院・ななえ新病院の合計)



総定員数

病院(ベッド数) **1,114床**

- 函館中央病院(令和8年6月1日より)……………435床
- 函館五稜郭病院……………480床
- ななえ新病院……………199床

施設(定員数) **849名**

- くるみ学園(地域小規模含む)……………40名
- 永楽荘……………150名
- 高丘寮……………120名
- ケアハウス豊寿……………50名
- 百楽園(サテライト含む)……………129名
- ケンゆのかわ……………150名
- ベイアニエス……………50名
- ももハウス……………60名
- もも太郎……………100名

学校(定員数)

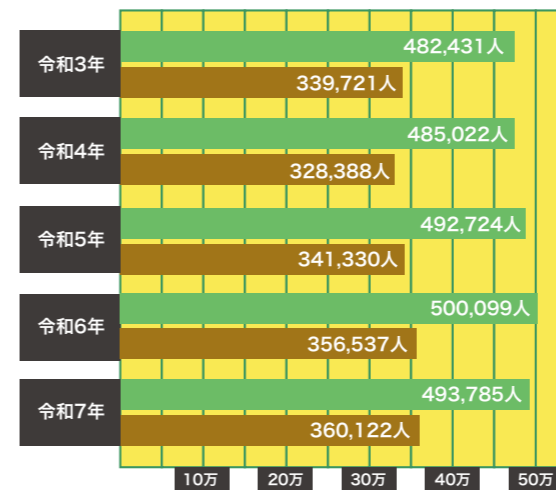
- 看護専門学校……………120名

Corporate Data | 厚生院グループ法人データ

環境データ(各燃料使用量)

	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
電気	15,867千kwh	15,154千kwh	15,596千kwh	15,608千kwh	15,832千kwh
ガソリン 軽油	92,329ℓ	93,257ℓ	93,864ℓ	95,707ℓ	92,673ℓ
ガス	728,334㎡	1,010,543㎡	1,227,439㎡	1,134,402㎡	1,305,787㎡
重油	2,128,557ℓ	1,645,262ℓ	1,309,462ℓ	1,213,954ℓ	1,277,723ℓ
灯油	115,041ℓ	112,637ℓ	115,904ℓ	117,822ℓ	117,789ℓ

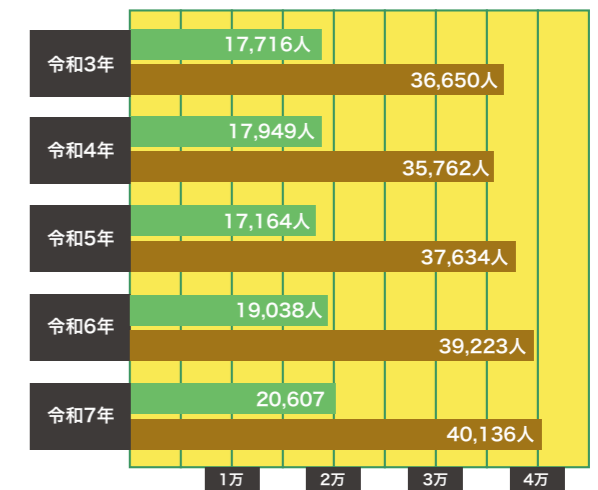
病院データ



■外来患者数 ■入院患者数(延人数)

病床稼働率				
令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
84.8%	82.0%	85.0%	89.0%	89.9%

介護・福祉データ



■訪問サービス利用者 ■通所サービス利用者(延人数)

入所者数(延人数)				
令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
295,880	292,178	293,168	293,593	297,311

※法人全体の延べ人数総計 ※訪問サービス…訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護 ※通所サービス…通所介護、通所リハビリ

各病院・施設のデータ

病院

函館中央病院
(無料又は低額診療施設)

■外来延べ患者数・・・198,035名
[1日平均].....673名
■入院延べ患者数・・・139,343名
[1日平均].....412名
■平均在院日数.....12.8日
■病床稼働率.....90.0%
■リハビリテーション実施単位数・・・208,109
■職員数.....1,045名

函館五稜郭病院
(医療保護施設)

■外来延べ患者数・・・270,364名
[1日平均].....926名
■入院延べ患者数・・・151,345名
[1日平均].....415名
■平均在院日数.....10.8日
■病床稼働率.....86.4%
■リハビリテーション実施単位数・・・148,604
■職員数.....1,069名

ななえ新病院
(無料又は低額診療施設)

■外来延べ患者数.....25,386名
[1日平均].....94名
■入院延べ患者数.....69,434名
[1日平均].....190名
■平均在院日数.....67.5日
■病床稼働率.....95.6%
■リハビリテーション実施単位数・・・77,559
■訪問看護延べ利用者数・・・7,629名
■デイケア延べ利用者数・・・9,224名
■職員数.....238名

入所施設

くるみ学園
(児童養護施設)

■延べ入所者数.....13,219名
[1日平均].....36.2名
■稼働率.....90.5%
■職員数(嘱託医除く).....43名
地域小規模・児童家庭支援センター職員含む

高丘寮
(救護施設)

■延べ入所者数.....41,567名
[1日平均].....113.9名
■稼働率.....94.9%
■職員数(嘱託医除く).....46名

永楽荘
(養護老人ホーム)

■平均介護度.....1.4
■延べ入所者数.....52,527名
[1日平均].....149.15名
■稼働率.....99.4%
■デイサービス延べ利用者数※1・・・1,099名
■ショートステイ1日平均利用者数※2・・・6.1名
■職員数(嘱託医除く).....66名
※1 定員30名 ※2 定員9名

百楽園
(特別養護老人ホーム)

■平均介護度.....4.2
■延べ入所者数.....46,966名
[1日平均].....128.7名
■稼働率.....99.8%
■デイサービス延べ利用者数※1・・・10,658名
■ショートステイ1日平均利用者数※2・・・18.3名
■職員数(嘱託医除く).....117名
※1 定員40名 ※2 定員20名

ももハウス
(特別養護老人ホーム)

■平均介護度.....4.2
■延べ入所者数.....20,660名
[1日平均].....56.6名
■稼働率.....94.3%
■デイサービス延べ利用者数※1・・・4,852名
■ショートステイ1日平均利用者数※2.....9名
■職員数(嘱託医除く).....56名
※1 定員25名 ※2 定員10名

ケンゆのかわ
(介護老人保健施設)

■平均介護度.....2.9
■延べ入所者数.....52,877名
[1日平均].....140.4名
■稼働率.....93.6%
■デイケア延べ利用者数※1・・・11,541名
■ショートステイ1日平均利用者数.....4.8名
■職員数.....141名
※1 定員53名

もも太郎
(介護老人保健施設)

■平均介護度.....3.0
■延べ入所者数.....33,938名
[1日平均].....93名
■稼働率.....93%
■デイケア延べ利用者数※1・・・2,762名
■ショートステイ1日平均利用者数.....0.4名
■職員数.....67名
※1 定員20名

ケアハウス豊寿
(ケアハウス)

■平均介護度.....1.4
■延べ入所者数.....17,823名
[1日平均].....48.8名
■稼働率.....97.6%
■職員数.....25名

バイアニエス
(ケアハウス)

■延べ入所者数.....17,734名
[1日平均].....48.6名
■稼働率.....97.2%
■職員数(嘱託医除く).....11名

【ISO26000対照表】

函館厚生院グループでは、社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿って、CSR経営の体系化を進めています。グループ全体で取り組むべき課題と目標は、このISO26000に示された課題を理解した上で、グループとしての経営課題とすり合わせて設定し、進捗を管理・報告しています。

中核主題	課 題	CSRレポート掲載の取組内容
6.2	組織統治	■函館厚生院の基本理念(P03) ■函館厚生院の5つの基本・モットー(P03) ■HISTORY 函館厚生院のあゆみ(P03) ■理事長メッセージ(P04) ■函館厚生院グループの運営施設と事業(P05)
6.3	人 権	6.3.3: デューデリジェンス 6.3.4: 人権に関する危機的状況 6.3.5: 加担の回避 6.3.6: 苦情の解決 6.3.7: 差別及び社会的弱者 6.3.8: 市民的及び政治的権利 6.3.9: 経済的、社会的及び文化的権利 6.3.10: 労働における基本的原則及び権利 ■特集: フードドライブ(P07) ■安心サポート事業(生活困窮者に対する地域貢献活動)(P11) ■技能実習生スキーツアーinグリーンピア大沼(P13) ■1年目技能実習生の日本語講習(P13) ■第6期技能実習生の採用面接(P14) ■外国人職員 日本語能力試験合格(P14) ■第6期技能実習生の仲間入り(P15) ■外国人奨学生のインターンシップ実施(P15) ■外国人奨学生が4名に。今春には第一期生が各施設に配属(P16) ■院内に礼拝堂を設置、特定技能の外国人材が病院での勤務開始(P16) ■育児の憂、函館厚生院の墓 供養(P17) ■サステナ推進室活動開始(P18) ■地域食堂「ハロニコキッチン」(P18)
6.4	労働慣行	6.4.3: 雇用及び雇用関係 6.4.4: 労働条件及び社会的保護 6.4.5: 社会対話 6.4.6: 労働における安全衛生 6.4.7: 職場における人材育成及び訓練 ■KMATについて(P19) ■KMAT施設ラウンド・研修会(P20) ■介護職員キャリアラダー(P21) ■栗山町・北海道介護福祉学校と包括連携協定を締結(P22) ■地元高校生が看護学校の授業を体験(P23) ■仕事フェスタへ参加(P23) ■「厚生院フクシ未来講座」の開講(P24) ■白百合高校企業探求発表会(P24) ■大妻高校進路ガイダンスへ出展(P24) ■選奨高校進路説明会へ出展(P24) ■北海道教育大学函館校へ学びの場を提供(P25) ■七飯中学校の職業体験(P25) ■七飯高校×ケアハウス豊寿 施設見学ツアー(P26) ■看護専門学校オープンキャンパス開催(P26) ■ALL厚生院インターンシップ実施(P27) ■看護専門学校入学式(P27) ■高校生へキャリアラダー制度、施設見学及び施設概要の詳細説明(P28) ■北昭和小学校にて「ノーマリー教室」を実施(P28) ■第7回日本緩和医療学会へ登壇(P29) ■口腔ケア研修を介護職員が受講(P29) ■身だしなみ講座の開催(P30) ■採用時全体研修をリニューアル(P30) ■手術支援ロボット増設(P31) ■新型放射線治療装置を新設、高精度放射線治療センターを新設(P32) ■眼科手術用顕微鏡システムの更新(P33) ■エスコフィールドのシーズシートを職員へ提供(P33) ■多職種で健康講座を実施(P34) ■サイバーセキュリティ訓練を実施(P34) ■栄養士会の発足(P35) ■施設ケアマネ会の発足(P35) ■事務担当者会議の開催(P36) ■法人連携会議の開催(P36)
6.5	環 境	6.5.3: 汚染の予防 6.5.4: 持続可能な資源の利用 6.5.5: 気候変動の緩和及び気候変動への対応 6.5.6: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復 ■深堀小学校、深堀中学校と連動し東深堀町会へ手作りベンチの寄贈(P37) ■湯浜町会町の海岸清掃活動サポート(P38) ■深堀中学校「クリーングリーン作戦」サポート(P38)
6.6	公正な事業慣行	6.6.3: 汚職防止 6.6.4: 責任ある政治的関与 6.6.5: 公正な競争 6.6.6: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 6.6.7: 財権の尊重 ■大規模地震時医療活動訓練の実施(P39)
6.7	消費者課題	6.7.3: 公正なマーケティング、 事実に基づく偏りのない情報、及び公正な契約慣行 6.7.4: 消費者の安全衛生の保護 6.7.5: 持続可能な消費 6.7.6: 消費者に対するサービス、支援、 並びに苦情及び紛争の解決 6.7.7: 消費者データ保護及びプライバシー 6.7.8: 必要不可欠なサービスへのアクセス 6.7.9: 教育及び意識向上 ■「アテンドマイスター・プロ」を取得(P41) ■総合的な在宅支援事業を展開(P42) ■拡大WRM委員会の開催(P43) ■新しい検診バスの納車(P43) ■「2025函館マラソン」メディカルランナーの参加(P44) ■ドクターカー事業拡大(P44)
6.8	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	6.8.3: コミュニティへの参画 6.8.4: 教育及び文化 6.8.5: 雇用創出及び技能開発 6.8.6: 技術の開発及び技術へのアクセス 6.8.7: 富及び所得の創出 6.8.8: 健康 6.8.9: 社会的投資 ■タリーズコーヒー×厚生院 コラボ企画(P45) ■無印良品×厚生院 コラボ企画(P46) ■ユニクロ×厚生院 コラボ企画(P46) ■お茶っこひろばの感染予防講座(P47) ■湯浜町会の文化祭へ栄養士会が参加(P48) ■函館視力障害センターによる日常生活支援講座の開講(P48) ■市立函館高校子アリーディング部によるパフォーマンス(P49) ■市立函館高校国際交流部と技能実習生との交流(P49) ■選奨高校生徒によるクリスマスキャロリング(P50) ■上野町会、高丘町会にて「厚生院フクシ未来講座」を開講(P50) ■ALL厚生院として函館港まつりへ参加(P51、52) ■ALL厚生院として総合福祉センターまつり(あいよる21)へ参加(P52) ■4施設合同夏祭りの開催(P52) ■みかんカフェの開催(P53) ■高丘幼稚園との交流(P54) ■高丘小学校学芸会出前公演(P54) ■ケアハウス豊寿開設記念祭(P54) ■「さわやか講座」開講(P55) ■「脳いきいき講座」開講(P55) ■東深堀町会へ出前講座(P56) ■こども子育て支援室の取り組み(P57) ■フレイル予防・熱中症予防の取り組み(P58) ■最新のがん治療をわかりやすく説明した市民公開講座(P58)

【事業所別の問い合わせ先】

くるみ学園	〒041-0803 函館市亀田中野町38番地11
①児童養護施設くるみ学園 ※地域小規模児童養護施設いぢい含む	TEL 0138-46-4178 FAX 0138-46-5009
②児童家庭支援センター くるみ	TEL 0138-46-5095 FAX 0138-46-5009
③子育て短期支援事業所 くるみ	TEL 0138-46-5095 FAX 0138-46-5009
永楽荘	〒042-0955 函館市高丘町3番1号
①養護老人ホーム 永楽荘	TEL 0138-57-1366 FAX 0138-57-1338
②通所介護事業所 デイサービスセンター永楽荘	
③短期入所生活介護事業所 永楽荘	
④特定施設入居者生活介護事業所 永楽荘	
高丘寮	〒042-0955 函館市高丘町3番1号
①救護施設 高丘寮	TEL 0138-57-7038 FAX 0138-57-7098
ケアハウス豊寿	〒041-1111 亀田郡七飯町本町7丁目657番地5
①軽費老人ホーム ケアハウス豊寿	TEL 0138-66-3377 FAX 0138-66-3388
②特定施設入居者生活介護事業所 豊寿	
百楽園	〒042-0955 函館市高丘町3番1号
①特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) 百楽園	TEL 0138-57-7418 FAX 0138-57-7598
②地域密着型特別養護老人ホーム(地域密着型介護老人福祉施設) サテライト百楽園	TEL 0138-57-7418 FAX 0138-57-7598
③通所介護事業所 デイサービスセンター百楽園	TEL 0138-57-3611 FAX 0138-86-7803
④短期入所生活介護事業所 百楽園	TEL 0138-57-7418 FAX 0138-57-8621
⑤居宅介護支援事業所 百楽園	TEL 0138-36-5014 FAX 0138-36-5017
ケンゆのかわ	〒042-0932 函館市湯川町3丁目29番15号
①介護老人保健施設 ケンゆのかわ	TEL 0138-59-1211 FAX 0138-59-3990
②通所リハビリテーション事業所 ケンゆのかわ	TEL 0138-59-3065 FAX 0138-83-6012
③短期入所療養介護事業所 ケンゆのかわ	TEL 0138-59-1211 FAX 0138-59-3990
④訪問看護事業所 訪問看護ステーションケンゆのかわ	TEL 0138-59-1214 FAX 0138-83-6117
⑤居宅介護支援事業所 ケンゆのかわ	TEL 0138-36-1500 FAX 0138-83-6117
⑥訪問リハビリテーション事業所 ケンゆのかわ	TEL 0138-59-1211 FAX 0138-59-3990
⑦訪問介護事業所 ヘルパーステーション ケンゆのかわ	TEL 0138-36-0955 FAX 0138-83-6117
⑧身体障害者居宅介護事業所 ケンゆのかわ	TEL 0138-36-0955 FAX 0138-59-3990
ペリアニエス	〒041-0841 函館市日吉町4丁目7番82号
①軽費老人ホーム(ケアハウス) ペリアニエス	TEL 0138-31-3222 FAX 0138-31-3223
もも太郎	〒041-0804 函館市赤川町388番地1
①介護老人保健施設 もも太郎	TEL 0138-47-5550 FAX 0138-47-5551
②通所リハビリテーション事業所 もも太郎	
③短期入所療養介護事業所 もも太郎	
④訪問リハビリテーション事業所 もも太郎	
ももハウス	〒041-0804 函館市赤川町390番地2
①特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設) ももハウス	TEL 0138-47-3335 FAX 0138-47-3336
②通所介護事業所 デイサービスセンターももハウス	TEL 0138-47-3331 FAX 0138-47-6660
③短期入所生活介護事業所 ももハウス	TEL 0138-47-3979 FAX 0138-47-6660
④居宅介護支援事業所 ももハウス	TEL 0138-47-3380 FAX 0138-47-3336

【病院その他の問い合わせ先】

地域包括支援センター	
①函館市地域包括支援センターゆのかわ(東央部第1圏域) 〒042-0932 函館市湯川町1丁目15番19号	TEL 0138-36-4300 FAX 0138-57-0080
②函館市地域包括支援センターたかおか(東央部第2圏域) 〒042-0955 函館市高丘町3番1号	TEL 0138-57-7740 FAX 0138-57-7746
看護専門学校(看護師養成所)	〒040-0011 函館市本町34番8-1号
①函館厚生院看護専門学校	TEL 0138-52-6335 FAX 0138-52-7368
函館中央病院	〒040-8585 函館市本町33番2号
①無料または低額診療施設 函館中央病院	TEL 0138-52-1231 FAX 0138-54-7520
函館五稜郭病院	〒040-8611 函館市五稜郭町38番3号
①医療保護施設 函館五稜郭病院	TEL 0138-51-2295 FAX 0138-56-2695
ななえ新病院	〒041-1195 亀田郡七飯町本町7丁目657番地5
①無料または低額診療施設 ななえ新病院	TEL 0138-65-2525 FAX 0138-65-3769
②ななえ新病院 デイケアセンター	TEL 0138-65-2568 FAX 0138-65-2549
③訪問看護ステーション なな心	TEL 0138-65-2566 FAX 0138-65-3900

函館厚生院グループ CSRレポート | 2026



CSR REPORT

Corporate Social Responsibility

発行 / 2026年6月

編集 / 函館厚生院 CSR推進室

室長 船山 俊介(法人本部)
副室長 金子 雄一(法人本部)
石田 大輔(法人本部・永楽荘)
三浦 剛(中央病院)
松川 智哉(五稜郭病院)
小池 翔太(ななえ新病院)
京谷 佳子(包括ゆのかわ)
信田 和奏(包括たかおか)

〒040-0011 函館市本町34番8-1号
TEL.0138-51-9588 FAX.0138-55-9693

〈印刷・デザイン / 有限会社 岡部広告室〉